

宝達志水町特定環境保全公共下水道

管渠築造工事

標 準 仕 様 書

宝達志水町地域整備課

総 則

1 .下水道工事の施工に関する一般事項は宝達志水町作成の「標準仕様書」によるほか、「石川県土木工事共通仕様書」「石川県土木工事施工管理基準」の各規定に準じて行うものとする。

2 .請負者は工事の施工にあたり、道路法、道路交通法、騒音規制法、労働基準法、建設業法、建設工事公衆災害防止対策要綱、その他関係法規を厳守しなければならない。

第1章 一般仕様

本工事に対し必要な仕様は次のとおりとする。

(交通規制及びその他注意事項)

1. 工事施工に際しては交通、水利、その他公衆に迷惑を及ぼさぬよう留意し、それぞれの策を講ずること。
2. 工事施工に際しては、道路標識令の規定による標識を立て、かつ、交通制限をしようとするときは関係官公署と連絡のうえ所定の標識を立て、また、夜間注意灯安全柵等の危険防止及び交通の安全を図り、工事中事故の起こらぬように留意すること。

(工程表)

3. 工事施工に先立ち、工事施工の準備、方法、期間等による計画はあらかじめ監督員と協議し、承認を受けて工程表を町に提出するものとし、工事工程に変更のある場合は、その都度変更工程表を提出すること。

なお、軽微なものに関してはこの限りでない。

(建物の出入口)

4. 道路を横断する箇所、官公署、学校、病院等の出入口、その他一般家屋においても必要のある場合は、その出入口に対し必要相当な設備を命ずることがある。

(夜間作業)

5. 工事施工上夜間作業の必要あるときは、監督員の承認を得ること。また、監督員が必要であると認めたときは、夜間作業を命ずることがある。

(工事による被害)

6. 工事により第三者に被害を及ぼしたときは請負者の責とし、これに要する費用は請負者の負担とする。

(支給材料)

7 .工事施工中は、地下の既設物件に支障を及ぼさぬよう相当の防護工を施すこと。もし既設物件に損傷を及ぼし、又は便宜上取り壊しを行ったときは、請負者がこれを復旧するものとする。ただし、監督員が工事進行中当然支障ある地下埋設物であると認めた場合は、町側で当該地下埋設物を移設するものとする。この場合、請負業者はこれに協力するものとする。

(疑 義)

8 .本工事施工において疑義が生じた場合は、町と協議し定めるものとする。

第2章 材 料

(材料の規格)

1 .本管材料は、下記の規格によるものとする。

- (1) ヒューム管の材料は、日本下水道協会規格(JSWAS A-1)
- (2) 推進管の材料は(ϕ 250 mm $\sim\phi$ 700mm)日本下水道協会規格(JSWAS A-6)(ϕ 800mm $\sim\phi$ 3000mm)(JSWAS A-2)
- (3) 硬質塩化ビニル管の材料は、日本下水道協会規格(JSWAS K-1)および(JSWAS K-13)
- (4) 推進用硬質塩化ビニル管の材料は、日本下水道協会規格(JSWASK-6)
- (5) ダクタイル鋳鉄管の材料は、日本下水道協会規格(JSWAS G-1)

(検 査)

2.工事用材料は使用前、その品質、数量、寸法等の検査を受けなければならない。不合格品は使用してはならない。

第3章 工事一般

(施工計画書)

- 1 .請負者は、工事着手に先立ち、施工計画書を作成し、監督員に提出すること。
- 2 .施工計画を定めるにあたっては、施工現場の地質状況、埋設物の位置とその規模、交通状況及び家屋の密集度等現場の施工環境に十分留意し、工事の安全かつ円滑な施工の確保と公害防止に努めること。
- 3 .施工計画の内容について、監督員が「再検討」を指示した場合は、その内容について再度検討のうえ提出すること。
- 4 .請負者は、監督員に提出した施工計画書に従って工事を施工すること。
- 5 .施工計画書は一括して提出すること。
ただし、やむをえない理由により、監督員の承諾を得た場合は、これを分割して提出することができる。
- 6 .施工計画書記載の内容を変更するときは、当該事項の施工前に監督員に申し出て、新たに変更した施工計画書を提出すること。

(事前調査)

- 7 .請負者は、工事着手に先立ち、下記の調査のうち当該工事に必要な調査を実施して、その結果を所定の様式により監督員に提出すること。
 - (1) 工事損害補償に係る家屋等の事前調査
 - (2) 各企業者の管理台帳及び試験堀による「試験堀調査報告書」
 - (3) 酸素欠乏空気発生防止及び井戸枯れ把握に係る井戸分布調査
 - (4) 地質性状及び地下水位等の調査に係るボーリング調査
 - (5) 薬液注入工事に伴う調査
 - (6) その他必要な調査
- 8 .前項の調査に関する試験堀及びボーリング箇所等の詳細については、監督員と協議すること。

(施工管理)

9 .請負者は、工事の出来形及び品質が設計図書に適合するよう十分な施工管理を行うこと。

10 .監督員が工事の出来形及び品質を確認するため、必要な資料の提出を求めたときは、速やかに提出すること。

11 .工事は施工計画に定められた順序に従ってするものとし、次の工程に進む場合は、必ず前の工程を完了させ、その点検を行うこと。

12 .構築物は、それぞれの工程が完了するごとに監督員の確認を受けること。

13 .工事の施工にあたっては、監督員の指示に従い他の工事との連絡を密にして工事の円滑化を図るとともに、既存施設の機能、運営に支障をきたさないよう特に留意すること。

(安全管理)

14 .請負者は、労働災害、公衆災害及び物件損害等の未然防止に努め、「労働安全衛生法」及び「建設工事公衆災害防止対策要綱」等の定めるところに従い、その防止に必要な措置を十分に講ずること。

15 .工事が他の工事と競合又は隣接する場合は、相互に協調を図り、安全管理に万全を期すことはもちろんの事、トラブル等の起こらぬよう考慮すること。

16 .工事中は、気象情報等に十分注意を払い、豪雨出水、地震等が発生した場合は直ちに対処できるよう必要な対策を講じておくこと。

17 .火薬類、劇物類、ガソリン、ガスボンベ等の危険物を取扱い又は保管する場合は、関係法令に定める危険物取扱主任を定め、当該危険物取扱主任の指示に従い適切に行うこと。

18 .工事中は、水陸交通及び流水等を阻害し、一般公衆に迷惑を及ぼすことのないよう努めること。

19 .工事用資機材、残材、発生材等は、交通及び保安上の障害とならないよう整理し、出来る限り速やかに現場外へ搬出処分して、作業現場を常に整頓しておくこと。

20 .工事に圧気を併用する場合は、施工に先立ち、所轄労働基準監督署に「圧気工法作業開始届」を提出し、その写しを監督員に提出すること。

(掘 削)

21 .掘削は図面の形状寸法に合わせ、構造物基礎面基準面より深掘りすることのないように注意し、また凸凹のないようにすき取らなければならない。

(埋 戻)

22 .埋戻し作業にあたり、1層の仕上り厚は20 cm以下とし、1層毎に高さが均等になるよう、かつ、構築物の側面に空隙を生じないよう人力およびタンパ等を用いて十分に締固めること。

埋戻し(在来土)材料使用基準について

埋戻し材料として在来土を使用する場合は、下記の規定に合格するものとする。

- ・ 最大寸法 100mm
- ・ 4760 μ (No4)フルイ通過量 25～100%
- ・ 74 μ (No200) " 0～ 25%
- ・ 塑性指数 10 以下 (道路土工 施工指針 P.223)

品質管理について

埋戻しに関する品質管理について、埋戻し土で砂質土あるいは切込碎石を使用する場合は、締固め度を90%以上確保し、1工事あたり3回以上の現場密度試験を行うこと。

(残土処分)

23 .一般に市街地の道路の掘削であるから特に交通上の問題に留意し、掘削土砂は速やかに運搬すること。

(基礎工)

2 4 .基礎寸法は図面指示寸法どおりで、管の移動や破損がないよう荷重や衝撃に注意し、管の両側より同時に埋戻して管渠その他の構築物の側面に空隙を生じないように十分に突固めること。特に管の周辺および管頂 30cm までは注意しなければならない。また、1 層の仕上り厚は 20 cm とし、人力およびタンパ等を用いて入念に締固めること。

砂基礎(在来土)材料使用基準について

砂基礎材料として在来土を使用する場合は、下記の規定に合格するものとする。

- ・最大寸法 20mm
- ・4760 μ (No4)フルイ通過量 25～100%
- ・74 μ (No200) " 0～ 25%
- ・塑性指数 10 以下

(道路土工 施工指針 P.223、カルバート工指針 P.156)

(管渠布設)

2 5 .管渠の布設は中心線が直線となり、かつ、縦断図に示された管勾配が正確であるよう基礎上に堅固に据え付けて布設すること。桝取付管の取付位置は、桝位置との関係に特に留意し、監督員の指示により施工すること。

(切管及び取付ソケット管の施工)

2 6 .管切断及び取付ソケット管のための削孔は、管切断の切り口が凸凹のないよう、削孔は定規をあて余分の削り取りのないよう、また、ひび割れ破損など起こさぬように注意すること。

(人 孔)

27 .人孔は構造図により管渠工事と共に順次築造すること。人孔に取付けるべき流入管は、縦断図に示された管底高及び勾配により正確に取付け、漏水等が生じないように目地仕上げ等を入念に行う。

(路面復旧)

28 .埋戻し後路面不陸直しを行い、転圧後設計による路面復旧を行う。

(写真検査)

29 .本工事は地下に埋設されるため、監督員の指示に従い写真を撮影し、検査の対象とすること。この費用については請負者の負担とする。

(材料検収簿)

30 .請負者は材料検収簿を作成し提出のこと。

(土留め工)

31 .工事施工に先立ち、請負者の責において十分現場の状況(土質、地下水、地下埋設物、隣接家屋、その他)を調査把握し、事前に被害の防止対策を検討し、工事に着手しなければならない。

(汚水枳取付管の材料)

32 .硬質塩化ビニル管(以下「塩ビ管」という。)の材料は「JSWASK-1 下水道用硬質塩化ビニル管」によること。

33 .日本下水道協会の認定工場において製造、又は取扱っている製品(滑材、接着剤、接合剤、ゴム輪、塩ビ管用仮蓋等を含む。)とすること。

(取付管の布設)

3 4 .管の接合は、接着剤接合、ゴム輪接合、又は併用接合とし、侵入水等が生じないように入念に行うこと。接合は本管側から進めて、寸法出しは正確にすること。

3 5 .布設の際は、受け口を上流とし、床付面を荒らさないよう注意して、支管部分に曲げ荷重を発生させないように、管下端の空隙は十分に埋戻し材を充填し、突き固めること。

(汚水枳設置)

3 6 .汚水枳使用区分は、次のとおりとする。

枳深	枳口径
～1.5m	φ 200mm
～2.0m	φ 300mm
2.0m～	1 号人孔

基本的に普通枳(横抜き)を使用し、水路等により取付管が深くなる場合は、特殊枳(底抜き枳)を使用する。

土間コンクリートの寸法は、 1.0m×0.8m×0.1m とする。

(契約後の疑義)

3 7 .工事見積にあたっては、設計内容について疑義を十分ただしておくこと。

契約後設計書及び仕様書に疑義を生じたときは、すべて本町の指示に従うものとする。

(工事カルテ作成、登録)

3 8 .請負者は、受注時または変更時において工事請負代金額が 500 万円以上の工事について、工事实績情報サービス(CORINS)に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事实績情報として「工事カルテ」を作成し監督員の確認を受けたうえ、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内に、完成時は、工事完成後 10 日以内に、訂正時は適宜登録機関に登録申請をしなければならない。(ただし、工事請負代金額 500 万円以上 2,500 万円未満の工事については、受注・訂正時のみ登録するものとする。)

変更登録時は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請負代金のみ変更の場合は、原則として登録を必要としない。ただし、工事請負代金 2,500 万円を超えて変更する場合には変更時登録を行うものとする。

また、登録機関発行の「工事カルテ受領書」が請負者に届いた際には、その写しを直ちに監督員に報告しなければならない。なお、工事請負代金 2,500 万円以上の工事に変更時と完成時の間が 10 日間に満たない場合は、変更時の報告を省略できるものとする。

*付 則

用語説明

- 1) 人孔連絡工.....管渠を人孔に接続するための人孔側壁部コンクリート取壊し工である。
- 2) 人孔防護工.....管渠を人孔に接続する箇所における人孔の防護コンクリート工である。
- 3) 枿との接続.....汚水枿取付管(塩ビ管)と汚水枿の接続を行う作業である。
- 4) 土間コンクリート.....汚水枿設置に伴う民地土間コンクリートの復旧工である。

6 災 5 2 8 2 号ほか 志雄処理区

(1 工区)下水道災害復旧工事

特 記 仕 様 書

宝達志水町地域整備課

第1章 総 則	1
第2章 事前調査	2
第3章 排水工	4
第4章 管渠築造工	5
第5章 その他	6

第1章 総 則

- 1 .この仕様書は、6 災 5282 号ほか 志雄処理区(1 工区)下水道災害復旧工事について規定する。

原則として、「石川県土木工事共通仕様書」、「建設工事公衆災害防止対策要綱」、「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」、に準拠するほか本特記仕様書によるものとする。

- 2 .請負者は、工事着手前および工事中に必要なつど、工事内容を現場付近居住者に周知し、協力を求めるため必要な措置を講じなければならない。
- 3 .請負者は工事に先立ち、掘削位置・工法・交通保安設置などについて関係官公署などへの手続きを行ない、許可条件・指示事項などの確認をしなければならない。
- 4 .請負者は緊急時における社内の連絡、通報体制を確立し、工事着手前に監督員に届出しなければならない。
- 5 .請負者は工事中、事故があったときには直ちに所要の措置を講ずるとともに、事故発生の原因、経過および事故による被害内容などについて報告しなければならない。
- 6 .工事中は地質・湧水・その他自然現象に注意し、その状況を記録し、監督員に提出するものとする。
- 7 .工事中は地下埋設物について現地立会いを求めたり、埋設物に近接する場合などについては管理者と協議し、保安上必要な措置を講じたり、事故防止をはからねばならない。

また、必要に応じて危険防止などについて必要な標識施設などを設けなければならない。

第2章 事前調査

1 .土質調査

施工の段階で捕捉的に必要と考えられる場合、監督員と協議の上、実施しなければならない。

2 .地域の特殊性

工事現場の地域の特殊性を考慮した施工計画をたてる必要があるので、住宅街・商店街・工場地帯・学校・病院など、それぞれの地域の持つ特殊性に応じて騒音・振動の防止対策、歩行者の安全および通学路の確保、作業時期・作業時間の調整、自動車の出入りの確保などについて調査する。

3 .道路・交通状況調査

交通量の調査を行ない、工事による交通阻害の程度、定期バス・一般車両の迂回路の選定、覆工による施工などについて検討する。

4 .関連事業の調査

計画路線上に他企業との競合工事がある場合、それらの施工時期・施工内容について調査を行ない、関係機関と調整しなければならない。

5 .地下埋設物および地上障害物調査

ガスパイプ・水道管・電力・電通の地中線などの地下埋設物は、管理者の台帳・竣工図により、占用位置・大きさ・種別・材質・老朽度を調査する。

多くの地下埋設物が輻輳している場合、あるいは埋設物件が古い場合は、台帳と実際の位置とがおおはばに異なっていることがあるので、試験掘りなどを関係機関立会いの上で行ない、移設または防護の必要のある箇所については、その管理者と事前に協議し適切に処置する。

電通・電力などの架空線においても位置・構造・用途などを調査し、障害となる可能性のある場合は監督員と協議し、管理者に申し出て必要な措置を講じなければならない。

6 .家屋調査

工事に起因して被害の発生が予想される箇所について付近の地盤などを
勘案して、事前調査の範囲を定め監督員の承諾を受けるものとする。

調査内容については、対象物件により異なるため、調査報告書作成にあたり
監督員と協議し、必要かつ十分なものとする。

第3章 排水工

- 1 .排水設備は湧水量を十分に排水できる能力を有するとともに、不測の出水などに対して予備機を準備しておかなければならない。
- 2 .排水に際して、近くに適当な放流場所がない場合は、監督員の承諾を得て、仮管布設その他安全な方法で行なわなければならない。

第4章 管渠築造工

- 1 .管回りの埋戻しは特に慎重に人力で行ない、必要に応じ水締めなどで十分締固めること。
- 2 .底部地盤改良の掘削底面における不陸は砂にて調整することを基本とし、むやみに改良土を掘削し緩めないよう底部掘削は人力併用で行なうこと。
- 3 .マンホールと管との接合部は、止水性・可撓性の意味でマンホールジョイント(ゴム製)を取りつけること。
- 4 .マンホールの据付接合は、止水用シール材などを考慮し、止水に万全を期さなければならない。
- 5 .マンホール底部(インバート)の形状は、各個ごとに監督員の承諾を得なければならない。
- 6 .マンホール鉄蓋は路面に合わせて据付けなければならない。
- 7 .支管材料は、止水性・可撓性の意味で可撓型かつメカニカルロック型を取り付けること。

第5章 その他

1 .騒音・振動・粉塵など、公害対策に十分配慮しなければならない。残土および砂類の搬出入時には荷台シートカバーを使用し、また、現場内は整理・整頓・清掃し、常にきれいにすること。

2 .舗装復旧

図面上で明記してある部分以外について損傷した場合は、すべて請負者の負担で復旧すること。

3 .損失補償

下水道工事の施工にともない、家屋被害など第三者に被害が与えられた場合は、請負者の責任により補償するものとする。

4 .工事検査

工事施工は、設計書・図面・仕様書などに忠実に施工されなければならない。工事検査はできあがった施設が本来の機能を長年月にわたって発揮し得るか否かを判定することである。検査の時期は工事計画工程表に基づくが、事前に請負者は監督員に検査願いを申しでなければならない。

5 .提出図書及び竣工図の作成

工事が終了すると竣工図を作成し、工事完了検査を受けるものとする。以後、この図によって施設の維持管理を行なうわけであるから、竣工図は見やすく正確でなければならない。

その他提出図書と、そのとりまとめ様式、提出日については、監督員の指示による。

6 .疑義

設計図書の中で疑義がある場合は、当町監督員と協議し、その指示に従うものとする。

7.除雪

冬期における施工箇所及び施工区域の除雪は、請負者の負担において行うこと。

石川県土木工事特記仕様書〔共通編〕

当該工事の対象は、○印の項目とする。

令和7年4月1日適用

対象

- ☐ 1 検査指定材料 (約款第13条第2項)
- ☐ 2 見本資料指定材料 (共通仕様書第2編第1章第2節第4項)
- ☐ 3 資料指定工種 ~~(共通仕様書3-1-1-3第2項)~~
- ☐ 4 段階確認指定工種 (共通仕様書3-1-1-3第6項)
- ☐ 5 立会い指定材料及び工種 (約款第14条第1項及び2項)
- ☐ 6 中間検査 (共通仕様書1-1-1-23第8項)
- ☐ 7 安全管理
- ☐ 8 施工条件明示
- ☐ 9 再生資源（利用及び利用促進）計画書及び実績表（共通仕様書1-1-1-19）
- ☐ 10 使用機械
- ☐ 11 廃棄物処理及び清掃に関する法律による管理表（マニフェスト）制度
(共通仕様書1-1-1-19第2項)
- ☐ 12 コンクリート構造物の品質確保
- ☐ 13 電子納品・情報共有システムの対象
- ☐ 14 工事における創意工夫等の実施状況や総合評価方式における技術提案の履行状況
- ☐ 15 建設リサイクル法の対象
- ☐ 16 自主施工工事の対象
- ☐ 17 ~~ICT施工工事の対象~~
- ☐ 18 いしかわ週休2日工事の対象 発注方式：【発注者指定型（現場閉所）】
- ☐ 19 ~~余裕期間制度（フレックス方式）試行工事の対象~~
- ☐ 20 ウィークリースタンス等の推進
- ☐ 21 その他
- ☐ 22 「地域外からの労働者確保に要する間接費の設計変更」および、
「遠隔地からの建設資材調達に係る設計変更」の対象工事
※運用基準は県のHP「<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/gijyutsu/kijyun.html>」を参照

・本工事は、本特記仕様書〔共通編〕および「石川県土木工事共通仕様書」により施工すること。

・作成する書類については、発注者より特別な指示のない限り「石川県土木工事様式」及び「石川県土木工事施工管理基準」に基づき作成すること。

1 検 査 指 定 材 料 (約款第13条第2項)

区 分	印	材 料 検 査 の 対 象 と な る も の
1. 不可視部分の材料		(1) 基 礎 工 (木杭、鋼杭、プレキャストコンクリート杭)
		(2) 矢 板 類 (木矢板、鋼矢板、コンクリート矢板、PC矢板)
		(3) 胴 木 類 (胴木、鉄筋コンクリート胴木)
	○	(4) 管 類 (鋼管、コルゲートパイプ、鉄筋コンクリート管、 鋳鉄管、合成樹脂製管類、消雪パイプ)
		(5) 暗 渠 類 (プレキャストボックス)
		(6) 鉄 筋 類 (普通丸鋼、異形棒鋼)
		(7) 目 地 類 (止水板、目地板、タイバー、スリップバー、 チェアクロスバー)
		(8) 形 鋼 類 (トンネルの支保工材、基礎杭の補強材)
		(9) 網 類 (法面吹付等及び舗装用金網)
		(10) シート類 (河川海岸用の吸出し防止材、路盤紙)
		(11) アンカー類 (アンカーボルト、ロックボルト、タイロッド、 アンカーケーブル、定着材料)
		(12) マンホール類 (人孔用斜壁及び直壁)
		(13) 土壌改良材 (タンカル等の他肥料を含む)
		(14) 地盤改良材 (セメント系等)
		(15) 基盤材・種子類 (法面緑化)
2. 重要構造物の材料		(1) 橋 梁 類 (鋼橋及びP C 橋の材料)
		(2) 落石及び 防雪柵類 (落石防止柵、スノーシェッド、なだれ防止柵、 スノーシェルター)
		(3) 水 門 類 (ゲートの材料)
		(4) ポンプ及び原動機類
3. その他の材料		特に監督員が必要と認めるもの。

(注) 指定材料は、○印とする。

2 見 本 資 料 指 定 材 料（共通仕様書第2編第1章第2節第4項）

JISマーク表示品については、製品にJISマークが表示されていることが分かる写真等を監督員に提示することで、見本または品質を証明する資料の提出を省略できる。

区 分	印	見 本 又 は 資 料 提 出 の 対 象 と な る 材 料
1. 見 本		(1) 塗 料 (鋼橋、水門、鋼矢板、コンクリート面、落石・なだれ防止柵、スノーシェッド各塗装)
		(2) 捨 石 (港湾、海岸及び河川)
		(3) そ の 他 ()
2. 資 料 (検査指定材料以外のもの)		(1) コンクリート二次製品 ()
		(2) 形 鋼 類 ()
		(3) リサイクル製品 ()
		(4) リサイクル認定製品 ()
		(5) そ の 他 ()
3. その他の材料	○	(1) レディーミクストコンクリート（共通仕様書1-3-3-2） JISマーク表示認証製品を製造していない工場で製造する場合は、 配合計画書及び基礎資料を提出 ※上記以外は、省略可
	○	(2) アスファルト混合物（次のうちいずれかを提出すること） ・アスファルト混合物事前審査認定書（写） ・配合設計・試験練り結果報告書 ・実績または定期試験による配合設計・試験練り結果報告書 （小規模工事：500t未満あるいは2,000m ² 未満）

（注）指定材料は、○印とする。

3 資 料 指 定 工 種（共通仕様書3-1-1-3第2項）

区 分	印	資 料 事 前 提 出 の 対 象 と な る 工 種
1. 資料の事前提出		(1) トンネル (両坑口間の基準点、中心線測量結果)
		(2) P C 橋 (下部工の橋座高、支承間距離測定結果)
		(3) 鋼 橋 (下部工の橋座高、支承間距離測定結果)
		(4) 道路維持 (路面切削計画図)
		(5) 薬液注入 (事前調査)
2. そ の 他		

（注）指定工種は、○印とする。

4 段階確認指定工種（共通仕様書3-1-1-3第6項）

水道・下水道・その他編

印	工 種・個 所	項 目	確 認 時 期	摘 要
○	工事測量	位 置	設 定 時	仮 B・M、中心線等、入孔芯等
	支障物件移設	〃	着手前、埋戻前	地下埋設物等
	ウエルポイント工	〃	設 置 前	布設位置、排水設備、観測井
	基礎杭、鋼矢板、土留	出 来 形	打止め完了時	
○	床 掘	〃	完 了 時	床掘底面高
○	基 礎 工	〃	〃	基準高
○	管渠築造工	〃	埋 戻 前	基準高、接合
	鉄 筋	〃	組立て完了時	
○	入孔築造工	〃	埋 戻 前	
	薬液注入工	止水状況	完 了 時	止水効果
	推進掘進工	位 置	掘 進 前	方向、中心線、勾配等
	滑材裏込注入工	注 入 量	完 了 時	空袋検査
	シールド掘進工	位 置	掘 進 前	方向、中心線、勾配等
	シールド一時覆工	出 来 形	完 了 時	基準高、蛇行
	シールド二時覆工	〃	〃	基準高、覆工厚
○	路 盤 工	〃	舗装前	

（注）確認対象工種は○印とする。なお、確認頻度の多い場合は、監督員と協議すること。

5 立 会 い 指 定 材 料 及 び 工 種 (約款第14条第1項及び2項)

区 分	印	立会いのうえ調査又は施工すべきものと 指定した材料及び工種	立会いの頻度
1. 立会いのうえ 調査すべき もの		(1) コンクリート吹付、モルタル吹付、客土吹付材料	
		(2) その他 ()	
2. 立会いのうえ 施工すべき もの	○	(1) 重要構造物の基礎及び床掘の基準高	
		(2) 基礎杭の支持層到達時	試験資料採取時 (3本)
		(3) 井筒を沈下させる時	
		(4) P C桁の緊張時	
		(5) コンクリートダムの冷却管内のセメントミルク充填	
		(6) 方塊、異形ブロック、被覆石の据付け及び捨石の投入	
		(7) 港湾工事の法線測量	
		(8) 推進工、シールド工の着工時	
		(9) 薬液注入の現場注入試験	
		(10) 土質試験資料採取時	
		(11) P C橋梁のシース内のグラウト施工時	
		(12) アンカー工法の適正、限界試験時	
		(13) その他 ()	

(注) 指定材料及び工種は、○印とする。立会の頻度は、工事内容・現場状況に応じ明示する。

6 中間検査（共通仕様書1-1-1-23第8項）

印	中間検査対象工種	検査時期	摘要
	橋梁下部工	埋戻前	
	水門下部工	埋戻前	
	河川横断工	埋戻前	
	基礎杭	打込み後	
	ダム・ため池 (砂防ダム含む)	埋戻前	指示する箇所（ ）
	ケーソン工	型枠取外し後	
	路盤工	完了後	上層路盤施工後に表層工を同一工事で施工する場合 (ただし、急速施工をする場合は除く)
	P C橋桁	架設前	
	鋼橋	仮組立又は現場搬入時	
	鋼橋桁	ボルト本締め完了後	
	道路横断工	埋戻前	A=1.0㎡以上(他所管協議による占用構造物)、A =2.0㎡以上(その他)
	擁壁工	埋戻前	H=3.5m以上。ブロック積は除く。
	トンネル覆工	完了後	(鉄筋及び埋込まれる支保材料の組立完了後)
	トンネル鋼製支保工	コンクリート打設前	
	トンネルインバート工	コンクリート打設前	
	塗装工	中塗完了後	
	海岸護岸工	埋戻前	
	ポンプ及び原動機類	工場製作完了時	ポンプの場合φ400mm以上
	配電盤類	工場製作完了時	上記の設備に使用するもの
	水門類	工場製作完了時	1門10㎡以上
	暗渠排水工	埋戻前	被覆材(モミガラ等)施工の完了時
	管渠築造工	埋戻前	県水道管(基準高及び接合:検査箇所100m毎)
	管渠推進工	埋戻前	県水道管(基準高及び接合)
	スラストコンクリート等	埋戻前	
○	その他必要と認めるもの		

(注) 1. 対象工種は、○印とする。

2. 受注者は中間検査対象工種が完了した時又は完了予定日の前に、中間検査願を監督員に提出
しなければならない。

7 安全管理

- 1 受注者は、安全管理のための自主点検を実施するものとする。
- 2 自主点検の結果は点検書に記載し、保管するものとする。
- 3 受注者は、土石流の到達する恐れのある指定現場において、土石流に対する安全対策として監視員1名を設置し、流域状況の点検及び記録整理を実施するものとする。

4 安全訓練等の実施

本工事の施工に際し、現場に則した安全訓練等について、工事着手後原則として作業員全員の参加により、月当たり半日以上の時間を割当て下記の項目から実施内容を選択し、安全訓練を実施するものとする。

- (1) 安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育
- (2) この工事内容等の周知徹底
- (3) 工事安全に関する法令、通達、指針等の周知徹底
- (4) この工事における災害対策訓練
- (5) この工事現場で予想される事故対策
- (6) その他、安全訓練等として必要な事項

また、土石流の到達する恐れのある指定現場については、関係作業員に対して工事着手後遅滞なく1回、及びその後6ヶ月に1回の避難訓練を実施するものとする。

5 安全訓練等に関する施工計画書の作成

施工に先立ち作成する施工計画書に、この工事の内容に応じた安全・訓練等の具体的な計画を作成し、監督員に提出するものとする。

6 安全訓練等及び土石流監視報告書の実施状況報告

安全訓練等及び土石流監視の実施状況報告をビデオ等、または実施状況報告書に記録し、報告するものとする。

7 安全のための適切な臨機の措置

- (1) 気象状況等に関して常時十分な注意を払うこと。
- (2) 作業時に危険を予知した場合等においては、ただちに作業を中止し作業員を安全な場所に退避させること。
- (3) 異常箇所の点検・原因の調査等は、二次災害防止のための応急措置を行った後、十分注意して行うこと。

8 施 工 条 件 明 示

下記明示項目、事項のうち○印該当欄は、工事施工にあたって制約等を受けることになるので留意すること。

明 示 項 目	明 示 事 項	制 約 条 件 等
I 工 程 該 当 ○	1 関連する別途発注工事あり ア 工 事 名 : (道路災 (6-5227、6-5228)) イ 入 札 予 定 : () ウ 制 約 工 種 : () エ 施工可能工種 : () オ そ の 他 : ()	
	2 他機関協議による工程条件あり ア 工 種 : () イ 期 間 : (年 月 ~ 年 月) ウ 協 議 機 関 名 : () エ 協 議 内 容 : ()	
	3 その他条件 ()	
II 用 地 該 当 ×	1 補償物件撤去まで着工制限あり 対象物件 : 建 物 () 撤去予定 (年 月) : 工 作 物 () 撤去予定 (年 月) : 立 木 () 伐採予定 (年 月) : そ の 他 () 撤去予定 (年 月)	ア 着工予定 (年 月) イ 区 間 (No. ~ No.)
	2 その他条件 ()	
III 公害対策 該 当 ×	1 施工法の制限あり (条件及び位置については別紙及び位置図参照) ア 騒音 イ 振動 ウ 水質 エ 大気 オ その他 () 必要対策 : 工 場 () 井戸等 () : 学 校 () その他 () : 病 院 ()	
	2 その他条件 ()	
IV 安全対策 該 当 ○	1 鉄道等の近接作業制限あり 2 発破作業制限あり 対策対象物 ()	ア 工法制限あり イ 作業時間制限あり ウ 列車見張員 (配置人員: 1 日 名、延べ 名) ア 防護工指定あり イ 作業時間制限あり
	③ 交通誘導員 配置人員	交通誘導警備員A : 1 日 名、延べ 名 交通誘導警備員B : 1 日 2 名、延べ 203名
	※上記交通誘導警備員Aについては、石川県公安委員会が道路における危険を防止するため交通誘導警備が必要と認める区間の工事で、交通誘導警備業務を警備会社に委託する場合の交通誘導検定警備員である。	
	4 土石流発生のおそれがある 渓流あり	ア 監視体制の強化が必要 イ その他 ()
	5 夜間作業あり ()	
	6 その他条件 ()	

明 示 項 目	明 示 事 項	制 約 条 件 等
V 工事用道路 該 当 ○	1 一般道路（搬入路）の使用制限あり	ア 搬入経路指定あり イ 時間帯制限あり
	② 一般道路の占用可能	ア 全面占用可 イ 片側占用可 ウ 時間制限あり
	3 仮設道路の設置条件あり 標識等の配置位置図等は 共通仕様書1-1-1-34による。	ア 一般交通供用あり イ 安全施設必要 ウ 路面工（工種 簡易舗装（標準横断面図）を参照） エ 工事完了後存続 W= m（最低総幅員）
	4 その他条件（ ）	
VI 仮 設 備 該 当 ×	1 仮設構造物の転用（ ）	
	2 仮設構造物の兼用（ ）	
	3 その他条件（ ）	
VII 建設発生土、 補足土、 産業廃棄物 等 該 当 ○	受注者は、下記によらず施工する場合は、監督員と協議すること。	
	① 建設発生土	ア 名 称（河北都市環境整備事業協同組合） イ 所在地（津幡町興津キ29外50筆） ウ 引渡し条件（ ）
	2 補足土	ア 名 称（ ） イ 所在地（ ） ウ 引渡し条件（ ）
	③ 産業廃棄物	ア コンクリート塊（処分施設：（無筋）エコマスク）
		イ アスファルト塊（処分施設：古永建設）
		ウ 木くず（処分施設： ）
		エ その他（処分施設： 廃プラ 中部資源再開発）
	4 その他条件（ ）	
VIII 工事支障物件 該 当 ×	受注者は、共通仕様書1-1-1-28に基づき、現場着手時に地下埋設物等の事前調査を行うこと	
	1 占用支障物件 ア 電気（電柱、支線、架空線） イ 電話（地下、電柱、架空線） ウ 水道（本管、給水管） エ ガス（本管、引込管） オ その他（ ）	移転日（ 月 日 ） 移転日（ 月 日 ） 移転日（ 月 日 ） 移転日（ 月 日 ） 移転日（ 月 日 ）
	2 その他条件（ ）	

明 示 項 目	明 示 事 項	制 約 条 件 等
IX 現場環境改善 (5内容) ・率計上分	1 仮設備関係	ア 用水・電力等の供給設備 イ 緑化・花壇 ウ ライトアップ施設 エ 見学路及び椅子の設置 オ 昇降設備の充実 カ 環境負荷の低減
該 当 ×	2 安全関係	ア 工事標識・照明等安全施設のイメージアップ (電光式標識等) イ 盗難防止対策(警報機等) ウ 避暑(熱中症対策※)・防寒対策 (※主に現場の施設や設備に対する熱中症対策 エアコン、冷水機、冷蔵庫、製氷機、送風機、日よけテントなど)
	3 営繕関係	ア 現場事務所の快適化 イ 労働者宿舍の快適化 ウ デザインボックス(交通誘導警備員待機室) エ 現場休憩所の快適化 オ 健康関連設備及び厚生施設の充実等
	4 地域とのコミュニケーション	ア 完成予想図 イ 工法説明図 ウ 工事工程表 エ イメージアップ看板 オ デザイン工事看板(各工事PR看板含む) カ 見学会等の開催(イベント等の実施含む) キ 見学所(インフォメーションセンター)の設置 及び管理運営 ク パンフレット・工法説明ビデオ ケ 地域対策費等(地域行事等の経費を含む) コ 社会貢献
	・積上分	内容:
X 快適トイレ	「快適トイレ実施要領」に基づき実施すること。 実施内容および実施した場合の変更については、上記要領を参照すること。	
該 当 ×	1 快適トイレを原則設置すること	
	2 契約後、監督員へ提案・協議し、快適トイレを設置することができる。	
X I 熱中症補正	「熱中症対策に資する現場管理費の補正の要領」に基づき、熱中症対策に係る現場管理費の補正※を希望する場合は、監督員と協議すること。 ※主に作業員個人に対する熱中症対策 (塩飴、経口保水液等の飲料水、冷却用品、空調服、熱中症対策キットなど)	
該 当 ○	「建設現場における遠隔臨場に関する試行要領」に基づき、遠隔臨場を希望する場合は、監督員と協議すること。	
X III その他	1 現場発生材あり	品名・納入場所 ()
該 当 ○	2 支給材あり	品名・納入場所 ()
	3 工事の使用材料は、石川県エコ・リサイクル認定製品を優先的に使用してください。	
	4 工事の使用材料は、石川県内で生産された材料・製品を優先的に使用すること。 県外産を使用する場合は「様式25-2 県内産品の不採用調書」を提出すること。	
	5 施工地域・工事場所区分	ア 市街地(DID補正) イ 一般交通影響有(2車線以上かつ交通量5000台/日以上) ウ 一般交通影響有(イ以外、常時全面通行止めを含む) エ 山間僻地及び離島
	6 設計図書の照査	土木工事設計図書の照査ガイドライン(案)に基づき実施し、照査項目チェックリストを提出すること。 (土木一式3千万円以上、舗装・造園工事1千万円以上、その他工事1.5千万円以上)
	7 品質証明の対象工事(共通仕様書第3編3-1-1-5)	
	8 労務補正(補正内容:4週8休 補正工種:)	
	9 契約後VE適用 VE提案を行う場合、以下を参照のうえ、発注者と協議すること https://www.pref.ishikawa.lg.jp/gijyutsu/vekouji_toriatukaiyouryou.html	
	10 その他条件 ()	

9 再生資源（利用及び利用促進）計画書及び実施書 (共通仕様書1-1-1-19)

- 1 下記の条件に該当するものは、「再生資源利用計画書」、「再生資源利用実施書」を作成のうえ、監督員の確認をうけ、提出するものとする。

また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げるものとする。

(1) 土砂の搬入量が100m³以上の工事。

(2) 砕石の搬入量が250 t 以上の工事。

(3) 加熱アスファルト混合物の搬入量が100 t 以上の工事。

- 2 下記の条件に該当するものは、「再生資源利用促進計画書」、「再生資源利用促進実施書」を作成のうえ、監督員の確認をうけ、提出するものとする。

また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げるものとする。

(1) 建設発生土の搬出量が100m³以上の工事。

(2) コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材の重量が100 t 以上の工事。

(3) その他、建設リサイクル法の対象となる工事

- 3 上記2の「再生資材利用促進実施書」をもって、建設リサイクル法第18条の発注者への報告を兼ねるものとする。

- 4 上記1および2の作成は、最新の建設副産物情報交換システムまたは国土交通省が公開している建設リサイクル報告様式（エクセル様式）によるものとし、電子データで提出するものとする。

電子データの提出方法は、建設副産物情報交換システム使用の場合はPDFファイルで、エクセルの使用の場合はエクセルファイルとする。

※平成30年度よりCREDAS入力システムでの提出は不可とする。

なお、再生資源利用（促進）計画書・実施書及び現場掲示用の様式は、下記の石川県土木部監理課技術管理室のHPに掲載する様式－4、5を参照すること。

石川県土木部監理課技術管理室ホームページ（土木工事様式）：

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/gijyutsu/sinsinyousiki.html>

10 使用機械

1. 本工事において、工事の施工にあたり石川県土木工事共通仕様書1-1-1-32第6項の表1-1-1に示す建設機械を使用する場合は、表1-1-1の下欄に示す建設機械を使用しなければならない。
ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。

排出ガス対策型建設機械（共通仕様書 表1-1-1）	
機 種	備 考
一般工事用建設機械 ・バックホウ ・トラクタショベル（車輪式） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシーンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの。 油圧ハンマ、バイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引拔機、油圧式杭圧入・引拔機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機） ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ホイールクレーン	ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kw以上260kw以下)を搭載した建設機械に限る。 ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている自動車で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。

2. 排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス対策装置を使用する場合の確認方法等
 - 1) 施工計画書への記載

施工計画書の指定機械項目に

①機械名、 ②メーカー名、 ③形式名、 ④台数等を明記すること。

11 廃掃法による管理票（マニフェスト）制度

（共通仕様書1-1-1-19第2項）

●電子マニフェストを使用する場合（石川県では、電子マニフェストの導入を推進）

電子マニフェストにより報告した内容を確認出来る書類（受渡確認表など）を提示するものとする。

●紙マニフェストを使用する場合

建設副産物の適正処理を確認するため、紙マニフェストの処分終了票（E票）を完成検査時に提示するものとする。

ただし、廃掃法を遵守したうえで、工期内に産業廃棄物の最終処分を終了することが困難な場合は、工期内に中間処理業者への搬入が終了すればよいものとする。

この場合、受注者は紙マニフェストにより適正に中間処理業者に搬入されていることを確認するとともに発注者にそのB2票を提示しなければならない。

また、最終処分終了後すみやかにE票を提示しなければならない。

1 対象となる廃棄物

- （1）燃え殻
- （2）汚泥 ※
- （3）廃油
- （4）廃酸
- （5）廃アルカリ
- （6）廃プラスチック類
- （7）紙くず
- （8）木くず
- （9）繊維くず
- （10）動植物性残渣
- （11）ゴムくず
- （12）金属くず
- （13）ガラス及び陶磁器くず
- （14）鉱さい
- （15）がれき類
- （16）動物のふん尿
- （17）動物の死体
- （18）ばいじん
- （19）産業廃棄物を処分するために処理したもので、（1）～（18）に該当しないもの

※ 舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する排水については、排水吸引機能を有する切断機械等により回収し、「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処理すること。なお、排水処理費及び運搬費については契約変更の対象とする。

12 コンクリート構造物の品質確保

1. スペーサーについて

鉄筋コンクリートに関して、スペーサーの設置箇所及び数量は、構造物の側面については原則 1m^2 につき2個以上、構造物の底面については 1m^2 あたり4個以上設置すること。

また、型枠と接するスペーサーの強度については、本体コンクリートと同等以上の品質を有するモルタル製あるいはコンクリート製のものを使用すること。

2. コンクリートの打設計画について

コンクリートの打設作業に際しては、気温、打設高さ等の施工条件に応じた適切な施工方法を選定し、打設計画を施工計画書に記載すること。

3. 水セメント比の規定

土木コンクリート構造物の耐久性を向上させる観点から、レディーミクストコンクリート配合設計の水セメント比を鉄筋コンクリートについては55%以下、無筋コンクリートについては60%以下とする。

※なお、港湾構造物についてはこの水セメント比の規程は使用しないものとする。

4. レディーミクストコンクリートの品質確認について

1) 現場において、単位水量の確認を行うこと。

・確認時点・・ 現場での荷下ろし時点(コンクリートミキサー車のホッパーから採取)で行うこと。

・頻 度・・ 1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が 100m^3 以上の場合、2回/日(午前1回・午後1回)または重要構造物では構造物の重要度に応じて $100\text{m}^3\sim 150\text{m}^3$ ごとに1回。その他、監督員から指示があった場合。

・試験方法・・ 「単位水量測定要領」によること。測定結果は監督員に提出すること。

2) コンクリートの圧縮強度試験について

・測定基準・・ 土木工事施工管理基準の規定による。

・立会い・・ 公的機関で試験を実施する場合に限り、試験結果の提出をもって足りることとし、監督員の試験時の立会いを要しないものとする。(公的機関とは国公立学校試験室とするが、石川県生コンクリート工業組合県南・県北共同試験場については、公的機関と同等とみなすものとする。)

やむを得ず公的機関以外(生コンクリート会社等)で試験を実施する場合は、監督員等の立会いのうえ試験をするものとする。また、試験成績書には立会者の確認印かサインをすること。

5. 土木コンクリート構造物の品質確認について

1) テストハンマーによる強度試験を実施すること。

水セメント比の低下に伴い、水和熱量が増加するため、品質確保上十分な養生が必要となることから、築造された土木コンクリート構造物の品質が確保されているか確認するためにテストハンマーによる強度試験を行うこと。

・適用範囲・・ 強度推定調査の対象工種は、高さ5m以上の鉄筋コンクリート擁壁(但しプレキャスト製品は除く。)、内空断面が 25m^2 以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工(但しPCは除く。)、トンネル及び高さ3m以上の堰・水門・樋門とする。

・調査頻度・・ 調査頻度は、鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類については目地間、トンネルについては1打設部分、その他の構造物については強度が同じブロックを1構造物単位とし、各単位につき3箇所調査を実施すること。
調査の結果、所定の強度が得られない場合については、その箇所の周辺において、再調査を5箇所実施すること。

・確認時点・・ 材齢28～91日間に反発度を測定し、強度を推定すること。

・試験方法・・ 土木学会基準「硬化コンクリートのテストハンマー強度の試験方法」に基づき行い、強度への換算式は日本材料学会「シュミットハンマーによる実施コンクリートの圧縮強度判定方法(案)」を用いること。また、テストハンマーによる強度推定調査の注意点については「テストハンマーによる強度推定調査の6つのポイント」

(<https://www.pwri.go.jp/jpn/results/offer/testhammer/testhammer.pdf>)を参照すること。試験結果は監督員に提出すること。

2) 型枠及び支保工の取り外しは十分な強度を確保してからとする。

水セメント比の規定に伴い水和熱量抑制の観点から、高炉セメントB種を用いているが、短期強度の発現が遅いため、型枠等の取り外し時期については、コンクリート標準示方書施工編に記載されている型枠取り外しに必要な強度を確保した上で行うこと。

13 電子納品・情報共有システムの対象

本工事は、電子納品及び情報共有システムの対象工事である。

(電子納品について)

- 1 工事完成図書を電子データで納品する時の各種基準は、国土交通省並びに農林水産省の各種電子納品要領等及び石川県電子納品ガイドライン等で定めるファイルフォーマットに基づいて作成するものとする。
- 2 実施内容は以下のとおりとする。
 - 1) 別紙に示す工事関係書類の最終成果を、CD-RまたはDVD-R等で2部納品する。
なお、電子納品した工事関係書類については、紙で提出する必要はない。
 - 2) 別紙に記載がない項目については、監督員と協議の上、電子化の是非を決定する。
- 3 工事着手時には、石川県電子納品ガイドラインで定める「事前協議チェックシート」を用いて事前協議を行うものとする。
入手先：石川県ホームページ 電子納品
https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kanri/cals-ec/e_delivery.html
- 4 発注者が行う電子納品アンケート等の調査に協力する。
- 5 工事完成図書の納品に際し、以下の事項を事前に確認する。
 - 1) 電子納品チェックシステムによるチェックを行いエラーがないことを確認する。
入手先：電子納品チェックシステム（土木）
http://www.cals-ed.go.jp/edc_download/
※電子納品チェックシステムの最新バージョンを使用すること
 - 2) 最新のウイルス対策ソフトで、成果品にウイルスが混入していないことを確認する。
- 6 原本性を確保するため、電子媒体はCD-RまたはDVD-R等を使用することとする。

(情報共有システムについて)

- 1 情報共有システムの使用にあたっては、本県で使用する情報共有システムの機能や条件を定めた「石川県情報共有システム機能仕様書」を熟読し、「事前協議チェックシート」にて監督員と協議のうえ利用すること。
- 2 現場にインターネット環境が整っていないなど、当システムの使用が困難な場合、「事前協議チェックシート」にて監督員と協議し、その理由が適正であるときは、システムを使用しないことを認めることができる。

3 実施内容は以下のとおりとする。

- ① 受発注者間の書類の受け渡し
- ② 決裁
- ③ 承認、指示、承諾
- ④ 確認、検査 等

以上の行為を行う、または、受ける際、通常的手段（紙の書類の受け渡しや印鑑による決裁等）に代えてシステムを使用する。

4 監督員が指示するシステムの使用状況や結果に関する調査等に協力する。

5 本工事に使用するパソコンは、常に以下の状態を保たなければならない。

- 1) 最新のウイルス対策ソフトを導入する。
- 2) OS、ブラウザ及びメールソフトに最新のセキュリティパッチを適用する。
- 3) ウィニー等のファイル交換ソフトを導入しない。

完成検査時提出書類一覧（電子納品対応版）

別紙

令和5年4月版

名 称	代理人 チェック	監督員 チェック	情報共有システム使用の有無				検査時 提示のみ	フォルダー	備考	摘要
			有		無					
			電子納品	従来納品 (紙)	電子納品	従来納品 (紙)				
契約書			/	○	/	○	/			契約時
発注図			/	/	/	/	/	DRAWINGS	発注書が作成し、 受注者に渡す	
特記仕様書			/	/	/	/	/	DRAWING /SPEC	発注書が作成し、 受注者に渡す	
現場代理人及び主任技術者等選任届			/	○	/	○	/			約款第10条
工事工程表・変更工程表			/	○	/	○	/			締結の7日以内
施工計画書			○	/	○	/	/	PLAN/ORG		共通仕様書第1編1-1-1-4 請負額1千万円以上
施工体制台帳・施工体系図			○	/	/	○	/	MEET/ORG	下請契約書等は従来通り紙での 提出も可とする	共通仕様書第1編1-1-1-10
再生資源（利用、利用促進）計画書・実績表			○	/	○	/	/	MEET/ORG		共通仕様書第1編1-1-1-19
工事打合せ簿			○	/	/	○	/	MEET/ORG		約款第9条 共通仕様書第1編1-1-1-2
材料検査願			○	/	/	○	/	MEET/ORG	システムを使った場合は電子 ファイルのみ提出	約款第13条 特記で指定されている項目
材料検査願(自主施工)			○	/	/	○	/	MEET/ORG	システムを使った場合は電子 ファイルのみ提出	約款第13条 特記で指定されている項目
見本資料指定材料確認願			○	/	/	○	/	MEET/ORG	システムを使った場合は電子 ファイルのみ提出	約款第14条 特記で指定されている項目
立会確認願			○	/	/	○	/	MEET/ORG	システムを使った場合は電子 ファイルのみ提出	約款第14条 特記で指定されている項目
段階確認願			○	/	/	○	/	MEET/ORG	システムを使った場合は電子 ファイルのみ提出	共通仕様書第3編3-1-1-3 特記で指定されている項目
段階確認書(自主施工)			○	/	/	○	/	MEET/ORG	システムを使った場合は電子 ファイルのみ提出	共通仕様書第3編3-1-1-3 特記で指定されている項目
中間検査願			/	○	/	○	/		紙での提出。捺付資料を、シス テムで提出した場合は、電子納 品とする。	共通仕様書第1編1-1-1-23
確認願			○	/	/	○	/	MEET/ORG	システムを使った場合は電子 ファイルのみ提出	約款第18条
調査結果通知書、設計図書訂正・変更通知書			/	○	/	○	/	MEET/ORG	発注書が作成し、 受注者に渡す	約款第18条、第19条
既済部分検査願			/	○	/	○	/			約款第37条 部分払いのある場合
仮設交通安全標示施設等自主点検書			/	/	/	/	○			共通仕様書第1編1-1-1-28
安全管理自主点検書			/	/	/	/	○			共通仕様書第1編1-1-1-28
安全・訓練等実施状況報告			/	/	/	/	○			共通仕様書第1編1-1-1-28
マニフェスト（総括表）			○	/	○	/	○ (E原、B2票)	MEET/ORG	総括表のみ提出 E原又はB2票は提示のみ	共通仕様書第1編1-1-1-19
品質管理表			○	/	○	/	/	MEET/ORG	カタログ、ミルシート等は従来 通り提出	共通仕様書第1編1-1-1-22
品質証明員通知書			○	/	○	/	/	MEET/ORG	作成に用いた電子ファイル	共通仕様書第3編3-1-1-5 (100,000千円以上)
品質証明書			○	/	○	/	/	MEET/ORG	作成に用いた電子ファイル	共通仕様書第3編3-1-1-5 (100,000千円以上)
コンクリート耐久性向上対策（自社ソフトで作成）			○	/	○	/	/	MEET/ORG	PDFファイルに変換して提出	特記仕様書による
〃（エクセルで作成）			○	/	○	/	/	MEET/ORG	エクセルファイルを提出	
出来形管理表・出来形図（自社ソフト作成）			○	/	○	/	/	MEET/ORG	PDFファイルに変換して提出	共通仕様書第1編1-1-1-22
〃（エクセルで作成）			○	/	○	/	/	MEET/ORG	エクセルファイルを提出	
コンクリート構造物の品質管理			○	/	○	/	/	MEET/ORG		特記仕様書による
工期延期願			/	○	/	○	/			共通仕様書第1編1-1-1-16
工事中写真			○	/	○	/	/	PHOTO/PIC	解像度は100dpi程度 枚数は写真管理基準	共通仕様書第3編3-1-1-6
完成写真			○	○	○	○	/	PHOTO/PIC	〃	共通仕様書第3編3-1-1-6
参考図			○	/	○	/	/	PHOTO/DRA	形式はJPEGまたはTIFF (G4)	
植樹保険証書			/	○	/	○	/			植樹直工50万円以上の場合 共通仕様書第1編1-1-1-42
建退共掛金収納書 (中小企業退職金共済制度、林業退職金共済制度は写)			/	○	/	○	/			締結後1ヶ月以内 100万円未満省略可
建退共掛金充当実績総括表			/	/	/	/	○			共通仕様書第1編1-1-1-42
完成図			○	/	○	/	/	DRAWINGF		共通仕様書第1編1-1-1-21 発注図をCADで渡した場合
完成通知書			/	○	/	○	/			約款第31条
請求書			/	○	/	○	/			約款第31条
引渡書			/	○	/	○	/			約款第31条
電子納品成果品CD-R等			/	○	/	○	/		CD等を確認	CALS/EC対象工事
照査項目チェックリスト			○	/	/	○	/			特記仕様書による
創意工夫実施状況			○	/	○	/	/			特記仕様書による
技術提案履行確認シート			○	/	○	/	/			特記仕様書による
交通誘導員伝票（総括表）			○	/	○	/	○ (伝票)	MEET/ORG	総括表のみ提出 伝票は提示のみ	

14 創意工夫・現場条件への対応・社会性等に関する実施状況

受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や現場条件への対応に関する項目、または地域社会への貢献に関する事項について、工事完了時までに下記の様式により提出することができる。なお、総合評価方式における技術提案事項も、創意工夫等の対象となる。

工 事 名	受注者名	
項 目	内 容	備 考
☐ 創意工夫 (軽微な工夫)	☐ 施工	施工に伴う機械、器具、工具、装置類 二次製品、代替製品の利用 施工方法の工夫 施工環境の改善 仮設計画の工夫 施工管理、品質管理の工夫
	☐ 新技術登録技術	登録技術のうち「有効とされる技術」 登録技術のうち「有効とされる技術」以外 石川県新技術認定製品
	☐ 品質	工作物の品質向上に関する工夫 品質向上のための施工上の工夫
	☐ 安全衛生	安全施設・仮設備の配慮 安全教育・講習会・パトロールの工夫 作業環境の改善 交通事故防止の工夫
	☐ その他	
☐ 工事特性 (施工条件への 対応)	☐ 構造物の特性	規模が特殊な構造物 複雑な形状の構造物
	☐ 作業環境 社会条件	地盤変形、近隣構造物、地下埋設物への影響 作業条件、工程等への影響 騒音・振動・水質汚濁等環境対策 作業スペース制約・現道上の交通規制 緊急時の対応 広範囲にわたる施工箇所
	☐ 自然・地盤条件	湧水、地下水の影響 軟弱地盤、支持地盤の状況 気象条件の影響 地すべり、急流河川、潮流等、動植物等
	☐ その他	
☐ 社会性等 地域社会や住民に 対する貢献	☐ 地域への貢献等	周辺環境への配慮 現場環境の地域への調和 地域住民とのコミュニケーション 災害時の支援、協力 ボランティアの実施

注 創意工夫等、該当する項目の□にレマークを記入し、写真・参考図等により
実施内容の詳細を任意様式（技術提案の説明資料や写真帳など）で提出すること。

14. 総合評価方式における技術提案の履行状況

判定	履行	不履行有
----	----	------

技 術 提 案 履 行 確 認 シ ー ト	
工 事 名	△△
受 注 者 名	□□
現 場 代 理 人	☆☆
主 任・監 理 技 術 者	☆☆
監 督 員	石川太郎

	項 目	番号	具体的な 技術提案の内容	施工計 画書への 記載	履行状況の確認方法			履行の 確認者	履行の 確認日	履行 確認	備考
					確認方法	受注者と監督 員との協議日	監督員と工事管 理担当職員等と の協議日				
技術提案	(参考)記入例	1①	▲▲による■■■	○	●●●	H29.1.1	H29.1.2	石川	H29.3.3	履行	
特記事項											
不履行の処理	再施工の有無 有 ・ 無(再施工が合理的でない場合)								減点	点	

注 1) 総合評価方式における技術提案事項については、履行のための施工方法とその確認方法を施工計画書に記載すること。

2) 技術提案事項の履行確認は、監督員との協議により立会または写真などの書類によるものとし、その記録は説明資料として提出すること。

3) 本紙は、当初施工計画書に合わせて、監督員に提出すること。

4) 「判定」、「受注者と監督員との協議日」、「監督員と工事管理担当職員等との協議日」、「履行の確認者」、「履行の確認日」「履行確認」、「特記事項」、「不履行の処理」、「減点」については、受注者での記入は不要。

5) 確認方法については、受注者と監督員、監督員と工事管理担当職員等で協議し、決定すること。

6) 本紙提出後に、記載事項の変更があれば、受注者から監督員へ本紙を更新して提出すること。

7) 受注者の責により入札時の評価内容が満足できない場合は、原則として再施工を行うとともに工事成績評定点を5点減点する。

8) 再施工が合理的で無い場合は、工事成績評定点を5点減点するとともに加算点を再計算して修正の契約額を算出し、差額分を受注者へ課すこととする。

説 明 資 料 (実 施 状 況)

工 事 名			
受 注 者			
項 目			
番 号 (技術提案)	内 容		
詳細な内容			
添付写真、図			

説明資料は、簡潔に作成するものとし、必要に応じて別葉とする。

16 自主施工工事の対象

本工事は、自主施工対象工事であり、自主施工実施要領（試行案）の適用する受注者において自主施工工事を希望する場合は下記の様式により申請を行うこと。

※「自主施工工事実施要領（試行案）」

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/gijyutsu/index.html>

参考「自主施工工事実施要領（試行案）」より抜粋

適用範囲

特記仕様書に自主施工工事の対象であることが明記された工事で、以下の要件を全て満足し、かつ受注者が希望する工事とする。

（１）提出資料

- ① 申請書[自主施工工事様式－2]
- ② ISO9001の認証取得を示す登録証の写し
- ③ ISO9001の審査に係る次の書類
 - イ. 直近の審査報告書（初回審査、定期審査又は更新審査のいずれかを対象として審査登録機関が発行したものに限る。）の写し
 - ロ. イの審査に係る合格判定結果の写し
- ④ 申請に係る工事を担当する内部組織が、ISO9001認証を取得していることを示す書類
- ⑤ ISO9001認証の範囲が工事の内容に一致していることを示す書類。ただし、②でその内容が確認できる場合は④、⑤は提出しなくてよい。
- ⑥ 内部監査※1チームリーダーが、(財)日本適合性認証協会(JAB)の認定を受けている審査員養成機関が実施する内部品質監査員養成研修又はそれと同等の研修を修了していることを示す修了証の写し
- ⑦ 内部監査チームリーダーが、以下の要件をすべて満足することを証明する経歴証明書の写し[自主施工工事様式－4]
 - イ. 10年以上の現場経験を有する。
 - ロ. 以下の資格の少なくとも1つ以上を有する。
 - (イ) 技術士
 - (ロ) 1級土木施工管理技士
 - (ハ) 1級造園施工管理技士
 - ハ. 内部監査員としての経験を有すること。
- ⑧ 当該工事における監視・測定（検査）の結果を確認して承認する承認者（検査 承認者）が、以下の資格を有していることを証する写し
 - ・ 技術士 ・ 2級又は1級土木施工管理技士 ・ 2級又は1級造園施工管理技士

（２）請負者が県の請負業者有資格者名簿に登録されたもの（以下、「有資格者」という。）のうち指名基準表の等級A及びBに格付けされた有資格者である工事。

（３）自主施工工事の試行対象工事は、土木部出先機関等で発注する単年度工事の中から道路建設、道路整備、河川、砂防、港湾、都市計画、公園緑地、漁港、水道、下水道等の工事とする。ただし、新工法を採用した工事、施工条件が厳しい工事、第三者に対する影響のある工事、低入札価格調査制度対象工事等は、工事の適切・確実な履行を確保する観点から自主施工工事の試行対象とはしない。（石川県土木工事監督要綱の監督技術基準の取扱いについて参照）

18 いしかわ週休2日工事

・週休2日工事(現場閉所)の対象

本工事は、建設現場において週休2日に取り組む「いしかわ週休2日工事」の対象工事である。

週休2日工事(現場閉所)は、原則、工事着手日から工事完了日において、月単位の週休2日(4週8休相当)の現場閉所を確保することとする。

実施にあたっては、いしかわ週休2日工事実施要領及び細則の規定に基づき実施すること。

■週休2日工事(現場閉所)

- (1) 当初設計において月単位の週休2日(4週8休相当)に係る補正係数を乗じている。
- (2) 災害復旧工事(港湾・営繕・機械設備工事を除く)の受注者は、週休2日工事(交替制)への変更を希望する場合は、現場着手前に、週休2日工事(交替制)変更協議書(様式2)にて監督員と協議すること。
なお、週休2日工事(交替制)の費用計上にあたっては、達成状況を確認の上、達成状況に応じた補正係数に変更するものとする。
- (3) 受注者は、現場に週休2日に取り組むことを記載した工事看板(参考図参照)を設置すること。
- (4) 受注者は、現場着手前に対応する週休2日の休日取得[計画]表を作成し、監督員に提出・共有すること。
- (5) 受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は、対応する休日取得[計画]表を修正し、監督員に提出・共有すること。
- (6) 受注者は、工期最終日までに、対応する休日取得[実績]表を記入し、監督員に提出のうえ確認を受けること。
監督員が休日取得[実績]表により現場閉所の達成状況を確認し、月単位の週休2日(4週8休相当)に満たない場合は、通期の週休2日(4週8休相当)の補正に減額するものとし、通期の週休2日(4週8休相当)に満たない場合は、補正分を減額変更する。

■工事看板参考図

(イ) ご協力をお願いします	
(ロ) ○○○○○○を なおしています	
(ハ) 令和 ○年 ○月 ○日まで 時間帯 0:00 ~ 0:00	
(ニ) ○○○○○○工事	
発注者	石川県○○○事務所
電話番号	000-000-000
施工者	○○○建設株式会社
電話番号	000-000-000
この工事は、週休2日工事です	
	ようこそ石川県へ! Welcome to Ishikawa! 歡迎光臨石川縣!
	

20 ウィークリースタンス等の推進

本工事は、建設業の働き方改革を推進するため、受発注者協力のもとウィークリースタンス等に取り組むこととする。なお、工事着手前に受発注者間で下記事項について協議のうえ実施し、就業環境の改善に努めること。

<発注者の取組>

- 受注者からの質問や協議に対する回答については、基本的に「その日のうち」に回答すること。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを協議のうえ、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」に行うこと。
- 「月曜日の朝一番」及び「各建設会社のノー残業デー翌日の朝一番」を期限とした作業を指示しないこと。
- 「金曜日の作業依頼」や「昼休み・定時間際・定時後の作業依頼や打合せ」は控えること。

<受注者の取組>

- 工事着手前に工程管理方法について綿密に検討のうえ、作業間の関連や工事の進捗状況等を常に把握すること。
- 工事実施中において問題が発生した場合は、作業内容や工程及び発生原因等を整理のうえ、速やかに監督職員と書面で協議すること。

21 その他

1 イメージアップ看板

イメージアップ看板とは建設業の担い手となる就業者を確保するため、建設業の持つ魅力を発信していくことを目的として設置するものである。
対象工事は、当初設計額1,500万円以上とし、現場環境改善費にて対応する。
なお、当初設計額1,500万円未満の工事については、任意とし、現場環境改善費による設置を妨げない。

【イメージアップ看板参考図】



2 工事看板について

受注者は、現場の起点側に「スーパー戦隊」、終点側に「助け合おう石川」のイラストを載せた工事看板（参考図参照）を設置すること。

■工事看板参考図



管渠・土工・土留工・舗装工 集計表

工区名：志雄1工区

管 渠

名 称		単位	φ 150PRP	φ 200VU	
路線延長		m	325. 30		
管渠延長		m	319. 14		
管渠	管布設	m	319. 14		
	マンホール可とう継手	個	14		
	ヤリトリ継手	個			
	VU－RR変換接手	個			
管撤去工	撤去延長	VU	m	319. 14	
		HP	m		
	撤去重量	VU	t	1. 26	
		HP	t		
	撤去量	VU	m3	0. 88	
		HP	m3		

土 工

名 称		単位	0. 28BH	0. 45BH	0. 60BH
掘削	予 堀		m3	269. 5	
	機械掘削(土留有)		m3	409. 6	
基礎・埋戻し	碎石基礎	購入土	m3	97. 4	
		改良土	m3		
	埋戻し	購入土	m3	524. 5	
		改良土	m3		
残土処分		m3	679. 1		

土 留 工

	建込簡易土留工					
土留め規格	H=2. 0m	H=2. 5m	H=3. 0m	H=3. 5m	H=4. 0m	H=4. 5m
延 長	21. 40	193. 40	115. 50			

取付管工

名 称	単位	φ 150×100		
取付管接続替（支管取付工）	箇所	13		

舗装復旧

名 称		単位	町道As	歩道Co(1)	歩道Co(2)	歩道Co(4)
舗装切断工	As t=6cm	m	226. 40			
	Co t=7cm	m		355. 60		
	Co t=10cm	m			13. 60	
	Co t=20cm	m				60. 40
舗装版取壊	As t=6cm	m2	103. 77			
	Co t=7cm	m2		340. 50		
	Co t=10cm	m2			17. 00	
	Co t=20cm	m2				75. 50
残塊処分工	As	m3	6. 20			
	Co	m3		23. 80	1. 70	15. 10
表層工	密粒度As13	As t=3～6cm	m2	103. 77		
	Co 18-8-25BB W/C=65以下	Co t=7cm	m2		282. 00	
	Co 21-8-40BB W/C=65以下	Co t=10cm	m2			17. 00
	Co 21-8-40BB W/C=65以下	Co t=20cm	m2			75. 50
上層 路盤工	M40	t=15～18cm	m2	99. 45		
下層 路盤工	RC40	t=10～19cm	m2	99. 45	160. 02	6. 12
						27. 18

仮排水工

名 称	単位	φ 150PRP		
仮排水日数	日	99. 3		

© 150PRP 土 工 計 算 書																									工区名： 志雄1工区									
管 番 号	マン ホール 番号	路 基 延 長	控 除 長	土 量 掘 削 深	平均掘削深	土工種別 (下幅) 1:土留 2:素掘	掘 削 幅	バック ホウ	掘						埋										残 土 処 分									
									掘 削 高			削 土 量			埋 戻 幅			埋 戻 高			控 除 面 積		埋戻種別			土 量								
									舗 装 版 厚	予 堀	機 械	予 堀	機 械	控 除 既設 管渠	機 械	砂 基 礎	舗 装 厚	機 械	砕 石 基 礎	下 水 道 管	上 水 道 管	機 械	基 礎	機 械		土 量								
																								機 入 土		改 良 土	機 入 土	改 良 土						
																													1:購入 2:改良	1:購入 2:改良				
L1, L2	11, 12	h1, h2	H	選 択	m	t	H1	H2	V1	V2	V2	B3	B2	T	H3	H4+H5	a 1	a 2	選 択	選 択	m3	m3	m3	m3	m3									
m	m	m	m			m	m	m	m3	m3	m3	m	m	m	m	m	m2	m2			m3	m3	m3	m3	m3									
	815-3	2.70	0.44	2.114		(0.90)			町道As			0.019																						
814	+2.70	2.26		2.114	2.11	1	0.90	BH0.28	0.06	0.94	1.11	2.3	2.7		0.90	0.90	0.40	1.35	0.36	0.019		1	1	3.3		0.7	5.0							
	+2.70	63.00		2.114		(0.90)			歩道Co(1)					0.019																				
814	814-1	62.56	0.44	2.266	2.19	1	0.90	BH0.28	0.07	0.93	1.19	52.7	66.3	1.2	0.90	0.90	0.17	1.66	0.36	0.019		1	1	94.1		19.1	119.0							
	+2.70	6.80		2.114		(0.90)			歩道Co(2)					0.019																				
814	814-1	6.80		2.266	2.19	1	0.90	BH0.28	0.10	0.90	1.19	5.5	7.2	0.1	0.90	0.90	0.25	1.58	0.36	0.019		1	1	9.7		2.1	12.7							
	814-1	29.10	0.44	2.346		(0.90)			歩道Co(1)					0.019																				
814	814-2	28.66		2.551	2.45	1	0.90	BH0.28	0.07	0.93	1.45	24.4	37.5	0.5	0.90	0.90	0.17	1.92	0.36	0.019		1	1	50.3		8.7	61.9							
道路災	814-1	15.70		2.346		(0.90)			歩道Co(1)					0.019																				
814	814-2	15.26	0.44	2.551	2.45	1	0.90	BH0.28	0.07	0.93	1.45	13.1	20.2	0.3	0.90	0.90	0.17	1.92	0.36	0.019		1	1	27.1		4.7	33.3							
	814-1	30.20		2.346		(0.90)			歩道Co(4)					0.019																				
814	814-2	30.20		2.551	2.45	1	0.90	BH0.28	0.20	0.80	1.45	21.7	38.8	0.6	0.90	0.90	0.35	1.74	0.36	0.019		1	1	47.3		9.2	60.5							
	814-2	20.70		2.531		(0.90)			歩道Co(1)					0.019																				
814	814-3	20.26	0.44	3.201	2.87	1	0.90	BH0.28	0.07	0.93	1.87	17.3	34.4	0.4	0.90	0.90	0.17	2.34	0.36	0.019		1	1	43.6		6.2	51.7							
道路災	814-2	49.30	0.44	2.531		(0.90)			歩道Co(1)					0.019																				
814	814-3	48.86		3.201	2.87	1	0.90	BH0.28	0.07	0.93	1.87	41.3	82.1	0.9	0.90	0.90	0.17	2.34	0.36	0.019		1	1	103.8		14.9	123.4							
道路災	811-1	43.00	0.44	2.875		(0.90)			町道As					0.019																				
809	809-1	42.12	0.44	2.203	2.54	1	0.90	BH0.28	0.06	0.94	1.54	36.4	58.8	0.8	0.90	0.90	0.40	1.78	0.36	0.019		1	1	68.9		12.8	95.2							
道路災	809-2	20.00	0.44	2.158		(0.90)			町道As					0.019																				
809	809-3	19.12	0.44	2.148	2.15	1	0.90	BH0.28	0.06	0.94	1.15	16.9	20.3	0.4	0.90	0.90	0.40	1.39	0.36	0.019		1	1	25.0		5.8	37.2							
道路災	809-3	23.40	0.44	2.128		(0.90)			町道As					0.019																				
809	809-4	22.52	0.44	2.168	2.15	1	0.90	BH0.28	0.06	0.94	1.15	19.8	23.8	0.4	0.90	0.90	0.40	1.39	0.36	0.019		1	1	29.3		6.9	43.6							
道路災	809-4	21.40	0.44	1.922		(0.90)			町道As																									
807	807-1	20.52	0.44	1.888	1.91	1	0.90	BH0.28	0.06	0.94	0.91	18.1	17.5		0.90	0.90	0.40	1.15	0.36	0.019		1	1	22.1		6.3	35.6							
小計		325.30									BH0.28	269.5	409.6											524.5		97.4	679.1							
		319.14									BH0.45																							

◎ 150PRP 污水管渠計算書													工区名：志雄1工区	
管番号	マンホール 番号	路線延長	管体延長	管材料			管撤去							
				直 管	マンホール ジョイント	ヤリトリ継手 変換接手	撤去管 管種管径	撤去延長	撤去重量		撤去量			
									m重量	重量	m量	量		
		m	m	m	個	個		m	kg/m	t	m3/m	m3		
814	815-3	2.70	2.26	2.26	1		VU150	2.26	3.941	0.009	0.0028	0.006		
	+2.70													
814	+2.70	63.00	62.56	62.56	1		VU150	62.56	3.941	0.247	0.003	0.173		
	814-1													
814	+2.70	6.80	6.80	6.80			VU150	6.80	3.941	0.027	0.003	0.019		
	814-1													
814	814-1	29.10	28.66	28.66	1		VU150	28.66	3.941	0.113	0.003	0.079		
	814-2													
道路災	814-1	15.70	15.26	15.26			VU150	15.26	3.941	0.060	0.003	0.042		
814	814-2													
814	814-1	30.20	30.20	30.20			VU150	30.20	3.941	0.119	0.003	0.083		
	814-2													
814	814-2	20.70	20.26	20.26	1		VU150	20.26	3.941	0.080	0.003	0.056		
	814-3													
道路災	814-2	49.30	48.86	48.86			VU150	48.86	3.941	0.193	0.003	0.135		
814	814-3													
道路災	811-1	43.00	42.12	42.12	1		VU150	42.12	3.941	0.166	0.003	0.116		
809	809-1													
道路災	809-2	20.00	19.12	19.12	1		VU150	19.12	3.941	0.075	0.003	0.053		
809	809-3													
道路災	809-3	23.40	22.52	22.52	1		VU150	22.52	3.941	0.089	0.003	0.062		
809	809-4													
道路災	809-4	21.40	20.52	20.52	1		VU150	20.52	3.941	0.081	0.003	0.057		
807	807-1													
小計		325.30	319.14	319.14	14			319.14		1.26		0.88		

◎ 150PRP 土留工計算書										工区名： 志雄1工区				
管番号	マンホール 番号	路線延長	掘削深	土留め	建 込 簡 易 土 留 工								軽量鋼矢板土留工	
					H1. 50m	H2. 00m	H2. 50m	H3. 00m	H3. 50m	H4. 00m	H4. 50m	H5. 00m		
					～1. 50	～2. 00	～2. 50	～3. 00	～3. 50	～4. 00	～4. 50	～5. 00		
		m	m		m	m	m	m	m	m	m	m	m	m
814	815-3						(5. 697)							
	+2. 70	2. 70	2. 11	土留			2. 70							
814	+2. 70						(137. 970)							
	814-1	63. 00	2. 19	土留			63. 00							
814	+2. 70						(14. 892)							
	814-1	6. 80	2. 19	土留			6. 80							
814	814-1						(71. 295)							
	814-2	29. 10	2. 45	土留			29. 10							
道路災 814	814-1						(38. 465)							
	814-2	15. 70	2. 45	土留			15. 70							
814	814-1						(73. 990)							
	814-2	30. 20	2. 45	土留			30. 20							
814	814-2							(59. 409)						
	814-3	20. 70	2. 87	土留				20. 70						
道路災 814	814-2							(141. 491)						
	814-3	49. 30	2. 87	土留				49. 30						
道路災 809	811-1							(109. 220)						
	809-1	43. 00	2. 54	土留				43. 00						
道路災 809	809-2						(43. 000)							
	809-3	20. 00	2. 15	土留			20. 00							
道路災 809	809-3						(50. 310)							
	809-4	23. 40	2. 15	土留			23. 40							
道路災 807	809-4					(40. 874)								
	807-1	21. 40	1. 91	土留		21. 40								
小計		325. 30				21. 40	190. 90	113. 00						
平均掘削深						40. 87 1. 91	435. 62 2. 28	310. 12 2. 74						

◎ 150PRP 取付管計算書					工区名： 志雄1工区							
管番号	マンホール 番号	左右区分	箇所数	取付管径	取付管							備考
					支管撤去	90° 支管	自在曲管	やりとり継手	MH 可とう継手	カラー		
			箇所	mm	箇所	個	個	個	個	個	m3	
814	815-3	R	4	100	4	4	4	4				
	+2.70	L										
814	+2.70	R										
	814-1	L										
814	+2.70	R										
	814-1	L										
814	814-1	R										
	814-2	L	1	100	1	1	1	1				
道路災 814	814-1	R										
	814-2	L										
814	814-1	R										
	814-2	L										
814	814-2	R	1	100	1	1	1	1				
	814-3	L	1	100	1	1	1	1				
道路災 814	814-2	R										
	814-3	L										
道路災 809	811-1	R	2	100	2	2	2	2				
	809-1	L										
道路災 809	809-2	R										
	809-3	L	2	100	2	2	2	2				
道路災 809	809-3	R										
	809-4	L	1	100	1	1	1	1				
道路災 807	809-4	R										
	807-1	L	1	100	1	1	1	1				
小計	-----		13		13	13	13	13				

本 管 舗 装 復 旧 計 算 書					工 区 名： 志 雄 1 工 区						
管 番 号	マンホール 番 号 下流側 上流側	路線延長	本 管 掘削幅	舗装種別	舗装切断工		舗装取壊工		舗装復旧		摘 要
					本数	切断長	取壊幅	面 積	復旧幅	面 積	
		m	m		本	m	m	m2	m	m2	
		L 1	B 1		N	L 2	B 4		B 5	A 2	
814	815-3 +2.70	2.70	0.90	町道As	4	10.80	1.60 0.90	4.3 2.4	2.50 0.90	6.8 2.4	本復旧
814	+2.70 814-1	63.00	0.90	歩道Co(1)	2	126.00	1.60 0.90	100.8 56.7	2.50 0.90	157.5 56.7	本復旧
814	+2.70 814-1	6.80	0.90	歩道Co(2)	2	13.60	1.60 0.90	10.9 6.1	2.50 0.90	17.0 6.1	本復旧
814	814-1 814-2	29.10	0.90	歩道Co(1)	2	58.20	1.60 0.90	46.6 26.2	2.50 0.90	72.8 26.2	本復旧
道路災 814	814-1 814-2	15.70	0.90	歩道Co(1)	2	31.40					
814	814-1 814-2	30.20	0.90	歩道Co(4)	2	60.40	1.60 0.90	48.3 27.2	2.50 0.90	75.5 27.2	本復旧
814	814-2 814-3	20.70	0.90	歩道Co(1)	2	41.40	1.60 0.90	33.1 18.6	2.50 0.90	51.8 18.6	本復旧
道路災 814	814-2 814-3	49.30	0.90	歩道Co(1)	2	98.60					
道路災 809	811-1 809-1	43.00	0.90	町道As	2	86.00					
道路災 809	809-2 809-3	20.00	0.90	町道As	2	40.00					
道路災 809	809-3 809-4	23.40	0.90	町道As	2	46.80					
道路災 807	809-4 807-1	21.40	0.90	町道As	2	42.80					
小計		325.30		町道As 歩道Co(1) 歩道Co(2) 歩道Co(4)		226.40 355.60 13.60 60.40		103.77 340.50 17.00 75.50		99.45 160.02 6.12 27.18	6.8 282.0 17.0 75.5

◎ 150PRP 仮排水計算書												工区名： 志雄1工区						
管番号	マンホール 番号	路線延長	掘削深	BH種別	予掘り		土留め		掘削工		管布設工	管基礎 埋戻し	土留め		人孔		合計	
							建込						引抜					
					土量	日数	土留め	日数	土量	日数	土量	土留め	設置	インバート	実日数	供用日数		
					日当たり		日進量		日当たり		日進量	0.3日/箇所					0.1日/箇所	×
		m	m	m		日		日		日	52.60m/日	36m3/日		日	0.3日/箇所	0.1日/箇所	日	日
814	815-3				2.30m3		H2.50m		2.70m3			4.00m3	H2.50m			1箇所		
	+2.70	2.70	2.11	BH0.28	32m3/日	0.1	48.50	0.1	59m3/日		0.1	0.1	71.40			0.1	0.5	1.0
814	+2.70				52.70m3		H2.50m		66.30m3			113.20m3	H2.50m					
	814-1	63.00	2.19	BH0.28	32m3/日	1.6	48.50	1.3	59m3/日	1.1	1.2	3.1	71.40	0.9			9.2	17.5
814	+2.70				5.50m3		H2.50m		7.20m3			11.80m3	H2.50m			1箇所		
	814-1	6.80	2.19	BH0.28	32m3/日	0.2	48.50	0.1	59m3/日	0.1	0.1	0.3	71.40	0.1		0.1	1.0	1.9
814	814-1				24.40m3		H2.50m		37.50m3			59.00m3	H2.50m			1箇所		
	814-2	29.10	2.45	BH0.28	32m3/日	0.8	48.50	0.6	59m3/日	0.6	0.6	1.6	71.40	0.4		0.1	4.7	8.9
道路災 814	814-1				13.10m3		H2.50m		20.20m3			31.80m3	H2.50m			1箇所		
	814-2	15.70	2.45	BH0.28	32m3/日	0.4	48.50	0.3	59m3/日	0.3	0.3	0.9	71.40	0.2		0.1	2.5	4.8
814	814-1				21.70m3		H2.50m		38.80m3			56.50m3	H2.50m			1箇所		
	814-2	30.20	2.45	BH0.28	32m3/日	0.7	48.50	0.6	59m3/日	0.7	0.6	1.6	71.40	0.4		0.1	4.7	8.9
814	814-2				17.30m3		H3.00m		34.40m3			49.80m3	H3.00m			1箇所		
	814-3	20.70	2.87	BH0.28	32m3/日	0.5	42.00	0.5	59m3/日	0.6	0.4	1.4	62.50	0.3		0.1	3.8	7.2
道路災 814	814-2				41.30m3		H3.00m		82.10m3			118.70m3	H3.00m			1箇所		
	814-3	49.30	2.87	BH0.28	32m3/日	1.3	42.00	1.2	59m3/日	1.4	0.9	3.3	62.50	0.8		0.1	9.0	17.1
道路災 809	811-1				36.40m3		H3.00m		58.80m3			81.70m3	H3.00m			2箇所		
	809-1	43.00	2.54	BH0.28	32m3/日	1.1	42.00	1.0	59m3/日	1.0	0.8	2.3	62.50	0.7		0.2	7.1	13.5
道路災 809	809-2				16.90m3		H2.50m		20.30m3			30.80m3	H2.50m			2箇所		
	809-3	20.00	2.15	BH0.28	32m3/日	0.5	48.50	0.4	59m3/日	0.3	0.4	0.9	71.40	0.3	0.6		3.4	6.5
道路災 809	809-3				19.80m3		H2.50m		23.80m3			36.20m3	H2.50m			1箇所		
	809-4	23.40	2.15	BH0.28	32m3/日	0.6	48.50	0.5	59m3/日	0.4	0.4	1.0	71.40	0.3		0.1	3.3	6.3
道路災 807	809-4				18.10m3		H2.00m		17.50m3			28.40m3	H2.00m			2箇所		
	807-1	21.40	1.91	BH0.28	32m3/日	0.6	57.30	0.4	59m3/日	0.3	0.4	0.8	83.30	0.3		0.2	3.0	5.7
小計		325.30				8.4		7.0		6.8	6.2	17.3		4.7	0.6	1.2	52.2	99.3

マンホール 集計表

工区名： 志雄1工区

組立式マンホール

名 称			単位	1号	特1号	0号
マンホール設置工	特1号・0号	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
	1号	マンホール深3m以下	箇所	2		
		マンホール深4m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
マンホール撤去工	特1号・0号	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
	1号	マンホール深3m以下	箇所	2		
		マンホール深4m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
副管設置工	φ 150×100	上部布設替え	箇所			
		一式	箇所			
削孔工	φ 100VU		箇所			
	φ 150PRP		箇所			
	φ 200VU		箇所			
底部工	インバート φ 150		箇所	10		
	インバート撤去 φ 150		箇所	10		
			箇所			
補修工	注入工法		箇所			
	コーキング工法		箇所			

塩ビ製小口径マンホール

名 称			単位	φ 300×150	φ 300×200	
マンホール 設置工	起点・ 中間点	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3.5m以	箇所			
	起点落差 形式	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3.5m以	箇所			
	底部会合 形式	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3.5m以	箇所			
铸铁製防護蓋		T-14	箇所			
		T-25	箇所			

マンホール高さ調整

名 称			単位	組立式MH		
マンホール撤去工	鉄蓋		箇所			
	調整リング		箇所			
	斜壁		箇所			
マンホール布設替え	鉄蓋	新設	箇所			
		既設転用	箇所			
	調整モルタル		箇所			
	調整リング(新設)	H50	箇所			
		H100	箇所			
		H150	箇所			

土 工(マンホール高さ調整・マンホール布設替)

名 称		単位	高さ調整	布設替	計
掘削	予 堀	m3			
	機械掘削(土留有)	m3			
埋戻し	購入土	m3			
	改良土	m3			
残土処分		m3			

舗装復旧(マンホール高さ調整・マンホール布設替)

名 称			単位	町道As		
				高さ調整	布設替	計
舗装切断工		t=5cm	m2			
舗装版取壊		t=5cm	m2			
残塊処分工		As	m3			
表層工	密粒度As13	t=3cm	m2			
上層路盤工	M30	t=12cm	m2			
下層路盤工	RC40	t=10cm	m2			

1 号 マ ン ホ ー ル 数 量 計 算 書

工区名： 志雄1工区

[illegible]

建込簡易土留め工 賃料・修理費及び損耗費の計算

工区名： 志雄1工区

建込規格	路線延長	使用長	使用面積	全体面積	賃料日数	日当り賃料	賃料	単位当り 修理費 損耗費	使用回数	補正率	修理費 損耗費
	L	l	A	ΣA	D	k	K	s	n	r	S
			$h \times l \times 2$	$L \times h \times 2$			$A \times D \times k$		$\Sigma A / \max A$	$(n+1) / 2$	$\max A \times s \times r$
	m	m	m ²	m ²	日	円/日・m ²	円	円/m ²	回		円
H=2.0m	21.40	21.40	85.6	85.6	3.4				9.7	5.4	
H=2.5m	193.40	30.00	150.0	967.0	38.7						
H=3.0m	115.50	30.00	180.0	693.0	28.5						
H=3.5m	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0						
	330.30		180.0	1745.6	71						
H=4.0m	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	
H=4.5m	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0						
	0.00		0.0	0.0	0						

建込簡易土留め工 運搬重量

建込規格	路線延長	使用長	1セット重量	搬入延長	運搬重量						
	m	m	t	m	日						
H=2.0m	21.40	21.40	12.0								
H=2.5m	193.40	30.00	14.6								
H=3.0m	115.50	30.00	18.4	30.0	18.4						
H=3.5m	0.00	0.00	23.0								
	330.30	0.00			18.4						
H=4.0m	0.00	0.00	32.7								
H=4.5m	0.00	0.00	38.3								
	0.00			0.0	0.0						

工区名：志雄1工区

1 セット延長 = 30.00 m 規 格 H = 2.00 m

延 長(m)	掘削深 (m)	予掘高さ	機械掘削高	掘削幅	舗装復旧厚	埋戻高	BH
21.40	1.91	1.00	0.91	0.90	0.30	1.61	0.28

掘削	$0.91 \times 0.90 \times 30.0$	=	24.6	(m ³)
建込		=	30.0	(m)
埋戻し	$1.61 \times 0.90 \times 30.0$	=	43.5	(m ³)
引拔		=	30.0	(m)

掘削	24.6m ³	÷	59.0	(m ³ /日)	×	1.9	=	0.79	(日)
建込	30.0m	÷	57.3	(m/日)	×	1.9	=	0.99	(日)
埋戻し	43.5m ³	÷	36.0	(m ³ /日)	×	1.9	=	2.30	(日)
引拔	30.0m	÷	83.3	(m/日)	×	1.9	=	0.68	(日)
							計	4.76	(日)

総延長	21.40	m		
転用回数	0.71	回	総延長÷30.0(m/セツト)	
供用日数	3.4	日	建込工開始～土留引抜工終了の期間	× 転用回数

建込簡易土留め工 賃料計算書

工区名： 志雄1工区

1 セット延長 = 30.00 m 規 格 H= 2.50 m

土工数量

延 長(m)	掘削深 (m)	予掘高さ	機械掘削高	掘削幅	舗装復旧厚	埋戻高	BH
190.90	2.28	1.00	1.28	0.90	0.30	1.98	0.28

数量(30m当たり)

掘 削	1.28×0.90×30.0	=	34.6	(m3)
建 込		=	30.0	(m)
埋戻し	1.98×0.90×30.0	=	53.5	(m3)
引 抜		=	30.0	(m)

1 セット(30m)当り日数

掘 削	34.6m3	÷	59.0	(m3/日)	×	1.9	=	1.11	(日)
建 込	30.0m	÷	48.5	(m/日)	×	1.9	=	1.18	(日)
埋戻し	53.5m3	÷	36.0	(m3/日)	×	1.9	=	2.82	(日)
引 抜	30.0m	÷	71.4	(m/日)	×	1.9	=	0.80	(日)
計								5.91	(日)

総 延 長	190.90	m		
転用回数	6.36	回	総延長÷30.0(m/セット)	
供用日数	37.6	日	建込工開始～土留引抜工終了の期間	× 転用回数

工区名：志雄1工区

1 セット延長 = 30.00 m 規 格 H = 3.00 m

延 長(m)	掘削深 (m)	予掘高さ	機械掘削高	掘削幅	舗装復旧厚	埋戻高	BH
113.00	2.74	1.00	1.74	0.90	0.30	2.44	0.28

掘削	$1.74 \times 0.90 \times 30.0$	=	47.0	(m ³)
建込		=	30.0	(m)
埋戻し	$2.44 \times 0.90 \times 30.0$	=	65.9	(m ³)
引抜		=	30.0	(m)

掘削	47.0m3	÷	59.0	(m3/日)	×	1.9	=	1.51	(日)
建込	30.0m	÷	42.0	(m/日)	×	1.9	=	1.36	(日)
埋戻し	65.9m3	÷	36.0	(m3/日)	×	1.9	=	3.48	(日)
引拔	30.0m	÷	62.5	(m/日)	×	1.9	=	0.91	(日)
							計	7.26	(日)

総延長	113.00	m			
転用回数	3.77	回	総延長÷30.0(m/セット)		
供用日数	27.4	日	建込工開始～土留引抜工終了の期間	×	転用回数

工区名：志雄1工区

1 セット延長 = 30.00 m 規 格 H = 2.50 m

延 長(m)	掘削深 (m)	予掘高さ	機械掘削高	掘削幅	舗装復旧厚	埋戻高	BH
2.50	2.36	1.00	1.36	2.50	0.30	2.06	0.28

掘 削	$1.36 \times 2.50 \times 30.0$	=	102.0	(m ³)
建 込		=	30.0	(m)
埋戻し	$2.06 \times 2.50 \times 30.0$	=	154.5	(m ³)
引 拔		=	30.0	(m)

掘削	102.0m ³	÷	59.0	(m ³ /日)	×	1.9	=	3.28	(日)
建込	30.0m	÷	48.5	(m/日)	×	1.9	=	1.18	(日)
埋戻し	154.5m ³	÷	36.0	(m ³ /日)	×	1.9	=	8.15	(日)
引拔	30.0m	÷	71.4	(m/日)	×	1.9	=	0.80	(日)
							計	13.41	(日)

総延長	2.50	m		
転用回数	0.08	回	総延長÷30.0(m/セツト)	
供用日数	1.1	日	建込工開始～土留引抜工終了の期間	× 転用回数

工区名：志雄1工区

規格 H= 3.00 m

延 長(m)	掘削深 (m)	予掘高さ	機械掘削高	掘削幅	舗装復旧厚	埋戻高	BH
2.50	2.36	1.00	1.36	2.50	0.30	2.06	0.28

掘削	$1.36 \times 2.50 \times 30.0$	=	102.0	(m ³)
建込		=	30.0	(m)
埋戻し	$2.06 \times 2.50 \times 30.0$	=	154.5	(m ³)
引抜		=	30.0	(m)

掘削	102.0m ³	÷	59.0	(m ³ /日)	×	1.9	=	3.28	(日)
建込	30.0m	÷	42.0	(m/日)	×	1.9	=	1.36	(日)
埋戻し	154.5m ³	÷	36.0	(m ³ /日)	×	1.9	=	8.15	(日)
引拔	30.0m	÷	62.5	(m/日)	×	1.9	=	0.91	(日)
							計	13.70	(日)

総延長	2.50	m		
転用回数	0.08	回	総延長÷30.0(m/セット)	
供用日数	1.1	日	建込工開始～土留引抜工終了の期間	× 転用回数

交通誘導員算定

工区名： 志雄1工区

φ 150PRP

交通誘導員A		×		=	人
交通誘導員B	52.2	×	2	=	105 人

マンホール撤去・再設置

交通誘導員A		×		=	人
交通誘導員B	4.0	×	2	=	8 人

合計

交通誘導員A					人
交通誘導員B					113 人

管渠・土工・土留工・舗装工 集計表

工区名：志雄4工区

管 渠

名 称		単位	φ 150PRP	φ 200VU	
路線延長		m	82. 50		
管渠延長		m	81. 62		
管渠	管布設	m	81. 62		
	マンホール可とう継手	個	2		
	ヤリトリ継手	個			
	VU－RR変換接手	個	2		
管撤去工	撤去延長	VU	m	81. 62	
		HP	m		
	撤去重量	VU	t	0. 32	
		HP	t		
	撤去量	VU	m3	0. 23	
		HP	m3		

土 工

名 称		単位	0. 28BH	0. 45BH	0. 60BH
掘削	予 堀		m3	69. 8	
	機械掘削(土留有)		m3	108. 3	
基礎・埋戻し	碎石基礎	購入土	m3	24. 9	
		改良土	m3		
	埋戻し	購入土	m3	127. 8	
		改良土	m3		
残土処分		m3	178. 1		

土 留 工

	建込簡易土留工					
土留め規格	H=2. 0m	H=2. 5m	H=3. 0m	H=3. 5m	H=4. 0m	H=4. 5m
延 長		33. 20	49. 30			

取付管工

名 称	単位	φ 150×100		
取付管接続替（支管取付工）	箇所	6		

舗装復旧

名 称		単位	町道As	県道As	歩道Co(2)	歩道Co(4)
舗装切断工	As t=6cm	m	171. 60			
	As t=15cm	m				
	Co t=10cm	m				
	Co t=20cm	m				
舗装版取壊	As t=6cm	m2	76. 49			
	As t=15cm	m2				
	Co t=10cm	m2				
	Co t=20cm	m2				
残塊処分工	As	m3	4. 60			
	Co	m3				
表層工	密粒度As13	As t=3cm	m2	74. 25		
	密粒度As20	As t=5cm	m2			
	Co 21-8-40BB W/C=65以下	Co t=10cm	m2			
	Co 21-8-40BB W/C=65以下	Co t=20cm	m2			
上層路盤工	M30	t=12cm	m2	74. 25		
下層路盤工	RC40	t=10cm	m2	74. 25		
	RC40	t=15cm	m2			

仮排水工

名 称	単位	φ 150PRP		
仮排水日数	日	25. 0		

[illegible]

◎ 150PRP 汚水管渠計算書													工区名： 志雄4工区	
管番号	マンホール 番号	路線延長	管体延長	管材料			管撤去							
				直 管	マンホール ジョイント	ヤリトリ継手 変換接手	撤去管 管種管径	撤去延長	撤去重量		撤去量			
									m重量	重量	m量	量		
		m	m	m	個	個		m	kg/m	t	m3/m	m3		
642	642-1													
	+3.30	3.30	2.86	2.86	1		VU150	2.86	3.941	0.011	0.0028	0.008		
642	+3.30													
	642-2	46.00	45.56	45.56	1		VU150	45.56	3.941	0.180	0.003	0.126		
642	+11.00													
	+44.20	33.20	33.20	33.20		2	VU150	33.20	3.941	0.131	0.003	0.092		
小計		82.50	81.62	81.62	2	2		81.62		0.32		0.23		

◎ 150PRP 土留工計算書													工区名： 志雄4工区	
管番号	マンホール 番号	路線延長	掘削深	土留め	建 込 簡 易 土 留 工								軽量鋼矢板土留工	
					H1. 50m	H2. 00m	H2. 50m	H3. 00m	H3. 50m	H4. 00m	H4. 50m	H5. 00m		
					～1. 50	～2. 00	～2. 50	～3. 00	～3. 50	～4. 00	～4. 50	～5. 00		
		m	m		m	m	m	m	m	m	m	m	m	m
642	642-1 +3. 30	3. 30	2. 63	土留				(8. 679) 3. 30						
642	+3. 30 642-2	46. 00	2. 63	土留				(120. 980) 46. 00						
642	+11. 00 +44. 20	33. 20	2. 26	土留			(75. 032) 33. 20							
小計		82. 50					33. 20	49. 30						
平均掘削深							75. 03 2. 26	129. 66 2. 63						

◎ 150PRP 取付管計算書					工区名： 志雄4工区							
管番号	マンホール 番号	左右区分	箇所数	取付管径	取付管							備考
					支管撤去	90° 支管	自在曲管	やりとり継手	MH 可とう継手	カラー		
			箇所	mm	箇所	個	個	個	個	個	m3	
642	642-1	R	3	100	3	3	3	3				
	+3.30	L	2	100	2	2	2	2				
642	+3.30	R										
	642-2	L										
642	+11.00	R	1	100	1	1	1	1				
	+44.20	L										
		R										
		L										
		R										
		L										
		R										
		L										
		R										
		L										
		R										
		L										
		R										
		L										
		R										
		L										
		R										
		L										
小計	-----		6		6	6	6	6				

本 管 舗 装 復 旧 計 算 書					工 区 名： 志 雄 4 工 区						
管 番 号	マンホール 番 号 下流側 上流側	路線延長	本 管 掘削幅	舗装種別	舗装切断工		舗装取壊工		舗装復旧		摘 要
					本数	切断長	取壊幅	面 積	復旧幅	面 積	
		m	m		本	m	m	m2	m	m2	
		L 1	B 1		N	L 2	B 4		B 5	A 2	
642	642-1 +3. 30	3. 30	0. 90	町道As	4	13. 20	0. 68 0. 90	2. 2 3. 0	0. 90	5. 2 3. 0	本復旧
642	+3. 30 642-2	46. 00	0. 90	町道As	2	92. 00	0. 90	41. 4	0. 90	41. 4	
642	+11. 00 +44. 20	33. 20	0. 90	町道As	2	66. 40	0. 90	29. 9	0. 90	29. 9	
小計		82. 50		町道As 県道As 歩道Co(2) 歩道Co(4)		171. 60		76. 49		74. 25	

◎ 150PRP 仮排水計算書														工区名： 志雄4工区						
管番号	マンホール 番号	路線延長	掘削深	BH種別	予掘り		土留め		掘削工		管布設工	管基礎 埋戻し	土留め		人孔		合計			
							建込						引抜							
					土量		土留め		土量				土量	土留め						
					日当たり		日数		日進量				日数	日当たり			日数	52.60m/日	36m3/日	日進量
							m	m	m				日		日		日	日	日	
642	642-1				2.80m3		H3.00m		4.70m3			6.50m3	H3.00m							
	+3.30	3.30	2.63	BH0.28	32m3/日	0.1	42.00	0.1	59m3/日	0.1	0.1	0.2	62.50	0.1		1箇所	0.1	0.8	1.5	
642	+3.30				38.90m3		H3.00m		66.60m3			91.30m3	H3.00m							
	642-2	46.00	2.63	BH0.28	32m3/日	1.2	42.00	1.1	59m3/日	1.1	0.9	2.5	62.50	0.7		1箇所	0.1	7.6	14.4	
642	+11.00				28.10m3		H2.50m		37.00m3			54.90m3	H2.50m							
	+44.20	33.20	2.26	BH0.28	32m3/日	0.9	48.50	0.7	59m3/日	0.6	0.6	1.5	71.40	0.5			4.8	9.1		
小計		82.50				2.2		1.9		1.8	1.6	4.2		1.3		0.2	13.2	25.0		

マンホール 集計表

工区名： 志雄4工区

組立式マンホール

名 称			単位	1号	特1号	0号
マンホール設置工	特1号・0号	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
	1号	マンホール深3m以下	箇所			
		マンホール深4m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
マンホール撤去工	特1号・0号	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
	1号	マンホール深3m以下	箇所			
		マンホール深4m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
副管設置工	φ 150×100	上部布設替え	箇所			
		一式	箇所			
削孔工	φ 100VU		箇所			
	φ 150PRP		箇所			
	φ 200VU		箇所			
底部工	インバート φ 150		箇所	1	1	
	インバート撤去 φ 150		箇所	1	1	
			箇所			
補修工	注入工法		箇所			
	コーキング工法		箇所			

塩ビ製小口径マンホール

名 称			単位	φ 300×150	φ 300×200	
マンホール 設置工	起点・ 中間点	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3.5m以	箇所			
	起点落差 形式	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3.5m以	箇所			
	底部会合 形式	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3.5m以	箇所			
鋳鉄製防護蓋		T-14	箇所			
		T-25	箇所			

マンホール高さ調整

名 称			単位	組立式MH		
マンホール撤去工	鉄蓋		箇所			
	調整リング		箇所			
	斜壁		箇所			
マンホール布設替え	鉄蓋	新設	箇所			
		既設転用	箇所			
	調整モルタル		箇所			
	調整リング(新設)	H50	箇所			
		H100	箇所			
		H150	箇所			

土 工(マンホール高さ調整・マンホール布設替)

名 称		単位	高さ調整	布設替	計
掘削	予 堀	m3			
	機械掘削(土留有)	m3			
埋戻し	購入土	m3			
	改良土	m3			
残土処分		m3			

舗装復旧(マンホール高さ調整・マンホール布設替)

名 称			単位	町道As		
				高さ調整	布設替	計
舗装切断工		t=5cm	m2			
舗装版取壊		t=5cm	m2			
残塊処分工		As	m3			
表層工	密粒度As13	t=3cm	m2			
上層路盤工	M30	t=12cm	m2			
下層路盤工	RC40	t=10cm	m2			

1 号 マ ン ホ ー ル 数 量 計 算 書

工区名： 志雄4工区

[illegible]

特 1 号 マ ン ホ ー ル 数 量 計 算 書

志雄4工区

管 番 号	マン ホー ル 番 号	マン ホー ル 深	ブ ロ ッ ク 積 高	鉄 蓋		調 整 金 具	マ ン ホ ー ル ブ ロ ッ ク															副管工		削孔工		インパート工		補修工		摘 要
							調整リング			斜　　壁			直　　壁				軀　　体				底 版									
							600 × 50	600 × 100	600 × 150	600 × 900 × 300	600 × 900 × 450	600 × 900 × 600	900 × 300	900 × 600	900 × 900		900 × 600	900 × 900												
							管 径	高 さ	管 径	箇所 数	管 径	注 入 工 法	コー キン グ 工 法																	
		m	m	－	組	mm	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個		m		箇所	－	箇所	箇所			
642	642-2																								インバ°撤去150	1				
																									インバ°150	1				
合　計	1.2～2.0 2.0～3.0 3.0～4.0																								インバ°150 インバ°撤去150	1 1				

建込簡易土留め工 賃料・修理費及び損耗費の計算

工区名： 志雄4工区

建込規格	路線延長	使用長	使用面積	全体面積	賃料日数	日当り賃料	賃料	単位当り 修理費 損耗費	使用回数	補正率	修理費 損耗費
	L	l	A	ΣA	D	k	K	s	n	r	S
			$h \times l \times 2$	$L \times h \times 2$			$A \times D \times k$		$\Sigma A / \max A$	$(n+1) / 2$	$\max A \times s \times r$
	m	m	m ²	m ²	日	円/日・m ²	円	円/m ²	回		円
H=2.0m	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0				2.6	1.8	
H=2.5m	33.20	30.00	150.0	166.0	6.5						
H=3.0m	49.30	30.00	180.0	295.8	11.5						
H=3.5m	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0						
	82.50		180.0	461.8	18						
H=4.0m	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	
H=4.5m	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0						
	0.00		0.0	0.0	0						

建込簡易土留め工 運搬重量

建込規格	路線延長	使用長	1セット重量	搬入延長	運搬重量						
	m	m	t	m	日						
H=2.0m	0.00	0.00	12.0								
H=2.5m	33.20	30.00	14.6								
H=3.0m	49.30	30.00	18.4	30.0	18.4						
H=3.5m	0.00	0.00	23.0								
	82.50	0.00			18.4						
H=4.0m	0.00	0.00	32.7								
H=4.5m	0.00	0.00	38.3								
	0.00			0.0	0.0						

工区名：志雄4工区

1 セット延長 = 30.00 m 規 格 H = 2.50 m

延 長(m)	掘削深 (m)	予掘高さ	機械掘削高	掘削幅	舗装復旧厚	埋戻高	BH
33.20	2.26	1.00	1.26	0.90	0.30	1.96	0.28

掘 削	$1.26 \times 0.90 \times 30.0$	=	34.0	(m ³)
建 込		=	30.0	(m)
埋戻し	$1.96 \times 0.90 \times 30.0$	=	52.9	(m ³)
引 拔		=	30.0	(m)

掘削	34.0m3	÷	59.0	(m3/日)	×	1.9	=	1.09	(日)
建込	30.0m	÷	48.5	(m/日)	×	1.9	=	1.18	(日)
埋戻し	52.9m3	÷	36.0	(m3/日)	×	1.9	=	2.79	(日)
引拔	30.0m	÷	71.4	(m/日)	×	1.9	=	0.80	(日)
							計	5.86	(日)

総延長	33.20	m		
転用回数	1.11	回	総延長÷30.0(m/セット)	
供用日数	6.5	日	建込工開始～土留引抜工終了の期間	× 転用回数

工区名：志雄4工区

規格 H= 3.00 m

延 長(m)	掘削深 (m)	予掘高さ	機械掘削高	掘削幅	舗装復旧厚	埋戻高	BH
49.30	2.63	1.00	1.63	0.90	0.30	2.33	0.28

掘 削	$1.63 \times 0.90 \times 30.0$	=	44.0	(m ³)
建 込		=	30.0	(m)
埋戻し	$2.33 \times 0.90 \times 30.0$	=	62.9	(m ³)
引 抜		=	30.0	(m)

掘削	44.0m ³	÷	59.0	(m ³ /日)	×	1.9	=	1.42	(日)
建込	30.0m	÷	42.0	(m/日)	×	1.9	=	1.36	(日)
埋戻し	62.9m ³	÷	36.0	(m ³ /日)	×	1.9	=	3.32	(日)
引拔	30.0m	÷	62.5	(m/日)	×	1.9	=	0.91	(日)
							計	7.01	(日)

総延長	49.30	m			
転用回数	1.64	回	総延長÷30.0(m/セット)		
供用日数	11.5	日	建込工開始～土留引抜き工終了の期間	×	転用回数

交通誘導員算定

工区名： 志雄4工区

φ 150PRP

交通誘導員A		×		=	人
--------	--	---	--	---	---

交通誘導員B	13.2	×	2	=	27 人
--------	------	---	---	---	------

合計

交通誘導員A					人
--------	--	--	--	--	---

交通誘導員B					27 人
--------	--	--	--	--	------

管渠・土工・土留工・舗装工 集計表

工区名：志雄10工区

管 渠

名 称		単位	φ 150PRP	φ 200VU	
路線延長		m	225. 30		
管渠延長		m	221. 47		
管渠	管布設	m	221. 47		
	マンホール可とう継手	個	8		
	ヤリトリ継手	個			
	VU－RR変換接手	個			
管撤去工	撤去延長	VU	m	221. 47	
		HP	m		
	撤去重量	VU	t	0. 87	
		HP	t		
	撤去量	VU	m3	0. 61	
		HP	m3		

土 工

名 称		単位	0. 28BH	0. 45BH	0. 60BH
掘削	予 堀		m3	189. 5	
	機械掘削(土留有)		m3	195. 2	
基礎・埋戻し	碎石基礎	購入土	m3	67. 5	
		改良土	m3		
	埋戻し	購入土	m3	271. 9	
		改良土	m3		
残土処分		m3	384. 7		

土 留 工

	建込簡易土留工					
土留め規格	H=2. 0m	H=2. 5m	H=3. 0m	H=3. 5m	H=4. 0m	H=4. 5m
延 長	84. 80	116. 00	24. 50			

取付管工

名 称	単位	φ 150×100		
取付管接続替（支管取付工）	箇所	5		

舗装復旧

名 称		単位	町道As	歩道Co(1)	歩道Co(2)	歩道Co(4)
舗装切断工	As t=6cm	m	225. 40			
	Co t=7cm	m		228. 60		
	Co t=10cm	m				
	Co t=20cm	m				
舗装版取壊	As t=6cm	m2	216. 86			
	Co t=7cm	m2		285. 75		
	Co t=10cm	m2				
	Co t=20cm	m2				
残塊処分工	As	m3	13. 00			
	Co	m3		20. 00		
表層工	密粒度As13	As t=3cm	m2	216. 86		
	Co 18-8-25BB W/C=65以下	Co t=7cm	m2		285. 75	
	Co 21-8-40BB W/C=65以下	Co t=10cm	m2			
	Co 21-8-40BB W/C=65以下	Co t=20cm	m2			
上層 路盤工	M40	t=15~18cm	m2	99. 90		
下層 路盤工	RC40	t=10~19cm	m2	99. 90	102. 87	

仮排水工

名 称	単位	φ 150PRP		
仮排水日数	日	59. 4		

[illegible]

◎ 150PRP 汚水管渠計算書													工区名：志雄10工区	
管番号	マンホール 番号	路線延長	管体延長	管材料			管撤去							
				直 管	マンホール ジョイント	ヤリトリ継手 変換接手	撤去管 管種管径	撤去延長	撤去重量		撤去量			
									m重量	重量	m量	量		
		m	m	m	個	個		m	kg/m	t	m3/m	m3		
815	815-1				1		VU150							
	815-2	56.00	54.81	54.81	1									
814	815-2				1		VU150							
	+58.3	58.30	57.86	57.86										
814	+58.3						VU150							
	815-3	1.70	1.26	1.26	1									
810	810-1				1		VU150							
	810-2	44.80	43.92	43.92	1									
802	804-3				1		VU150							
	+40.0	40.00	39.56	39.56										
802	+40.0						VU150							
	802-1	24.50	24.06	24.06	1									
小計		225.30	221.47	221.47	8			221.47		0.87		0.61		

◎ 150PRP 土留工計算書													工区名： 志雄10工区	
管番号	マンホール 番号	路線延長	掘削深	土留め	建 込 簡 易 土 留 工								軽量鋼矢板土留工	
					H1. 50m	H2. 00m	H2. 50m	H3. 00m	H3. 50m	H4. 00m	H4. 50m	H5. 00m		
					～1. 50	～2. 00	～2. 50	～3. 00	～3. 50	～4. 00	～4. 50	～5. 00		
		m	m		m	m	m	m	m	m	m	m	m	m
815	815-1						(114. 800)							
	815-2	56. 00	2. 05	土留			56. 00							
814	815-2						(120. 681)							
	+58. 3	58. 30	2. 07	土留			58. 30							
814	+58. 3						(3. 621)							
	815-3	1. 70	2. 13	土留			1. 70							
810	810-1					(73. 472)								
	810-2	44. 80	1. 64	土留		44. 80								
802	804-3					(66. 800)								
	+40. 0	40. 00	1. 67	土留		40. 00								
802	+40. 0							(67. 620)						
	802-1	24. 50	2. 76	土留				24. 50						
小計		225. 30				84. 80	116. 00	24. 50						
平均掘削深						140. 27 1. 65	239. 10 2. 06	67. 62 2. 76						

◎ 150PRP 取付管計算書					工区名： 志雄10工区						
管番号	マンホール 番号	左右区分	箇所数	取付管径	取付管						備考
					支管撤去	90° 支管	自在曲管	やりとり継手	MH 可とう継手	カラー	
			箇所	mm	箇所	個	個	個	個	個	m3
815	815-1	R	1	100	1	1	1	1			
	815-2	L									
814	815-2	R									
	+58.3	L									
814	+58.3	R									
	815-3	L									
810	810-1	R	1	100	1	1	1	1			
	810-2	L	1	100	1	1	1	1			
802	804-3	R	1	100	1	1	1	1			
	+40.0	L	1	100	1	1	1	1			
802	+40.0	R									
	802-1	L									
		R									
		L									
		R									
		L									
		R									
		L									
		R									
		L									
		R									
		L									
小計	-----		5		5	5	5	5			

◎ 150PRP 仮排水計算書														工区名： 志雄10工区				
管番号	マンホール 番号	路線延長	掘削深	BH種別	予掘り		土留め		掘削工		管布設工	管基礎 埋戻し	土留め		人孔		合計	
							建込						引抜					
					土量	日数	土留め	日数	土量	日数	52.60m/日	36m3/日	土量	土留め	設置	インバート	実日数	供用日数
					日当たり		日進量		日進量				日進量	0.3日/箇所				
		m	m	m		日		日		日	日	日		日	日	日	日	日
815	815-1				46.90m3		H2.50m		51.90m3			93.30m3	H2.50m			2箇所		
	815-2	56.00	2.05	BH0.28	32m3/日	1.5	48.50	1.2	59m3/日	0.9	1.1	2.6	71.40	0.8		0.2	8.3	15.8
814	815-2				48.80m3		H2.50m		55.00m3			98.40m3	H2.50m			1箇所		
	+58.3	58.30	2.07	BH0.28	32m3/日	1.5	48.50	1.2	59m3/日	0.9	1.1	2.7	71.40	0.8		0.1	8.3	15.8
814	+58.3				1.40m3		H2.50m		1.70m3			2.50m3	H2.50m			1箇所		
	815-3	1.70	2.13	BH0.28	32m3/日		48.50		59m3/日			0.1	71.40			0.1	0.2	0.4
810	810-1				37.90m3		H2.00m		25.00m3			48.90m3	H2.00m			2箇所		
	810-2	44.80	1.64	BH0.28	32m3/日	1.2	57.30	0.8	59m3/日	0.4	0.9	1.4	83.30	0.5		0.2	5.4	10.3
802	804-3				33.80m3		H2.00m		23.30m3			44.90m3	H2.00m			1箇所		
	+40.0	40.00	1.67	BH0.28	32m3/日	1.1	57.30	0.7	59m3/日	0.4	0.8	1.2	83.30	0.5		0.1	4.8	9.1
802	+40.0				20.70m3		H3.00m		38.30m3			51.40m3	H3.00m			1箇所		
	802-1	24.50	2.76	BH0.28	32m3/日	0.6	42.00	0.6	59m3/日	0.6	0.5	1.4	62.50	0.4		0.1	4.2	8.0
小計		225.30				5.9		4.5		3.2	4.4	9.4		3.0		0.8	31.2	59.4

マンホール 集計表

工区名： 志雄10工区

組立式マンホール

名 称			単位	1号	特1号	0号
マンホール設置工	特1号・0号	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
	1号	マンホール深3m以下	箇所			
		マンホール深4m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
マンホール撤去工	特1号・0号	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
	1号	マンホール深3m以下	箇所			
		マンホール深4m以下	箇所			
		マンホール深5m以下	箇所			
副管設置工	φ 150×100	上部布設替え	箇所			
		一式	箇所			
削孔工	φ 100VU		箇所			
	φ 150PRP		箇所			
	φ 200VU		箇所			
底部工	インバート φ 150		箇所	6		
	インバート撤去 φ 150		箇所	6		
			箇所			
補修工	注入工法		箇所			
	コーキング工法		箇所			

塩ビ製小口径マンホール

名 称			単位	φ 300×150	φ 300×200	
マンホール 設置工	起点・ 中間点	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3.5m以	箇所			
	起点落差 形式	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3.5m以	箇所			
	底部会合 形式	マンホール深2m以下	箇所			
		マンホール深3.5m以	箇所			
鋳鉄製防護蓋		T-14	箇所			
		T-25	箇所			

マンホール高さ調整

名 称			単位	組立式MH		
マンホール撤去工	鉄蓋		箇所			
	調整リング		箇所			
	斜壁		箇所			
マンホール布設替え	鉄蓋	新設	箇所			
		既設転用	箇所			
	調整モルタル		箇所			
	調整リング（新設）	H50	箇所			
		H100	箇所			
		H150	箇所			

土 工(マンホール高さ調整・マンホール布設替)

名 称		単位	高さ調整	布設替	計
掘削	予 堀	m3			
	機械掘削(土留有)	m3			
埋戻し	購入土	m3			
	改良土	m3			
残土処分		m3			

舗装復旧(マンホール高さ調整・マンホール布設替)

名 称			単位	町道As		
				高さ調整	布設替	計
舗装切断工		t=5cm	m2			
舗装版取壊		t=5cm	m2			
残塊処分工		As	m3			
表層工	密粒度As13	t=3cm	m2			
上層路盤工	M30	t=12cm	m2			
下層路盤工	RC40	t=10cm	m2			

1 号 マ ン ホ ー ル 数 量 計 算 書

工区名： 志雄10工区

[illegible]

建込簡易土留め工 賃料・修理費及び損耗費の計算

工区名： 志雄10工区

建込規格	路線延長	使用長	使用面積	全体面積	賃料日数	日当り賃料	賃料	単位当り修理費損耗費	使用回数	補正率	修理費損耗費
	L	l	A	ΣA	D	k	K	s	n	r	S
			$h \times l \times 2$	$L \times h \times 2$			$A \times D \times k$		$\Sigma A / \max A$	$(n+1) / 2$	$\max A \times s \times r$
	m	m	m ²	m ²	日	円/日・m ²	円	円/m ²	回		円
H=2.0m	84.80	30.00	120.0	339.2	11.8				7.1	4.1	
H=2.5m	116.00	30.00	150.0	580.0	20.9						
H=3.0m	24.50	24.50	147.0	147.0	6.0						
H=3.5m	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0						
	225.30		150.0	1066.2	39						
H=4.0m	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	
H=4.5m	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0						
	0.00		0.0	0.0	0						

建込簡易土留め工 運搬重量

建込規格	路線延長	使用長	1セット重量	搬入延長	運搬重量						
	m	m	t	m	日						
H=2.0m	84.80	30.00	12.0								
H=2.5m	116.00	30.00	14.6								
H=3.0m	24.50	24.50	18.4	30.0	18.4						
H=3.5m	0.00	0.00	23.0								
	225.30	0.00			18.4						
H=4.0m	0.00	0.00	32.7								
H=4.5m	0.00	0.00	38.3								
	0.00			0.0	0.0						

建込簡易土留め工 賃料計算書

工区名： 志雄10工区

1 セット延長 = 30.00 m 規 格 H= 2.00 m

土工数量

延 長(m)	掘削深 (m)	予掘高さ	機械掘削高	掘削幅	舗装復旧厚	埋戻高	BH
84.80	1.65	1.00	0.65	0.90	0.30	1.35	0.28

数量(30m当たり)

掘 削	$0.65 \times 0.90 \times 30.0$	=	17.6	(m3)
建 込		=	30.0	(m)
埋戻し	$1.35 \times 0.90 \times 30.0$	=	36.5	(m3)
引 抜		=	30.0	(m)

1 セット(30m)当り日数

掘 削	17.6m3	÷	59.0	(m3/日)	×	1.9	=	0.57	(日)
建 込	30.0m	÷	57.3	(m/日)	×	1.9	=	0.99	(日)
埋戻し	36.5m3	÷	36.0	(m3/日)	×	1.9	=	1.93	(日)
引 抜	30.0m	÷	83.3	(m/日)	×	1.9	=	0.68	(日)
計								4.17	(日)

総 延 長	84.80	m		
転用回数	2.83	回	総延長÷30.0(m/セット)	
供用日数	11.8	日	建込工開始～土留引抜工終了の期間	× 転用回数

工区名：志雄10工区

規 格 H= 2.50 m

延 長(m)	掘削深 (m)	予掘高さ	機械掘削高	掘削幅	舗装復旧厚	埋戻高	BH
116.00	2.06	1.00	1.06	0.90	0.30	1.76	0.28

掘削	$1.06 \times 0.90 \times 30.0$	=	28.6	(m ³)
建込		=	30.0	(m)
埋戻し	$1.76 \times 0.90 \times 30.0$	=	47.5	(m ³)
引抜		=	30.0	(m)

掘削	28.6m3	÷	59.0	(m3/日)	×	1.9	=	0.92	(日)
建込	30.0m	÷	48.5	(m/日)	×	1.9	=	1.18	(日)
埋戻し	47.5m3	÷	36.0	(m3/日)	×	1.9	=	2.51	(日)
引拔	30.0m	÷	71.4	(m/日)	×	1.9	=	0.80	(日)
							計	5.41	(日)

総延長	116.00	m		
転用回数	3.87	回	総延長÷30.0(m/セット)	
供用日数	20.9	日	建込工開始～土留引抜き工終了の期間	× 転用回数

工区名：志雄10工区

規 格 H= 3.00 m

延 長(m)	掘削深 (m)	予掘高さ	機械掘削高	掘削幅	舗装復旧厚	埋戻高	BH
24.50	2.76	1.00	1.76	0.90	0.30	2.46	0.28

掘削	$1.76 \times 0.90 \times 30.0$	=	47.5	(m ³)
建込		=	30.0	(m)
埋戻し	$2.46 \times 0.90 \times 30.0$	=	66.4	(m ³)
引抜		=	30.0	(m)

掘削	47.5m ³	÷	59.0	(m ³ /日)	×	1.9	=	1.53	(日)
建込	30.0m	÷	42.0	(m/日)	×	1.9	=	1.36	(日)
埋戻し	66.4m ³	÷	36.0	(m ³ /日)	×	1.9	=	3.50	(日)
引拔	30.0m	÷	62.5	(m/日)	×	1.9	=	0.91	(日)
							計	7.30	(日)

総延長	24.50	m			
転用回数	0.82	回	総延長÷30.0(m/セット)		
供用日数	6.0	日	建込工開始～土留引抜き工終了の期間	×	転用回数

交通誘導員算定

工区名： 志雄10工区

φ 150PRP

交通誘導員A		×		=	人
交通誘導員B	31.2	×	2	=	63 人

マンホール高さ調整

交通誘導員A		×		=	人
交通誘導員B		×		=	人

合計

交通誘導員A					人
交通誘導員B					63 人

志雄1工区						管渠布設替え重複控除												
MH撤去再設置						MH深	掘削深	破碎面積	掘削	残土	舗装切断	舗装版破碎	殻運搬	床堀	機械掘削	埋戻し	発生土運搬	路盤復旧
814-1	1号	-90 歩	Co(1)	上下流	本復旧	2.161	2.361	1.291	5.737	5.737	5	4.431	0.31	4.121	7.292	10.97	11.413	4.431
814-2	1号	-330 歩	Co(1)	上下流	仮復旧	2.346	2.546	1.291	6.187	6.187	5	4.431	0.31	4.121	8.283	11.961	12.404	4.431
計											10	8.862	0.62	8.242	15.575	22.931	23.817	8.862
公共ます撤去新設						深さ(撤去 廃プラ					舗装切断	舗装版破碎	殻運搬	床堀	機械掘削	埋戻し	発生土運搬	復旧
M814L	塩ビ	φ 200		1.43	0.009						3.6	0.779	0.039		1.075	0.958	1.075	0.779

MH種別	内径
1号	900
2号	1200
3号	1500
楕円長軸	900
楕円短軸	600

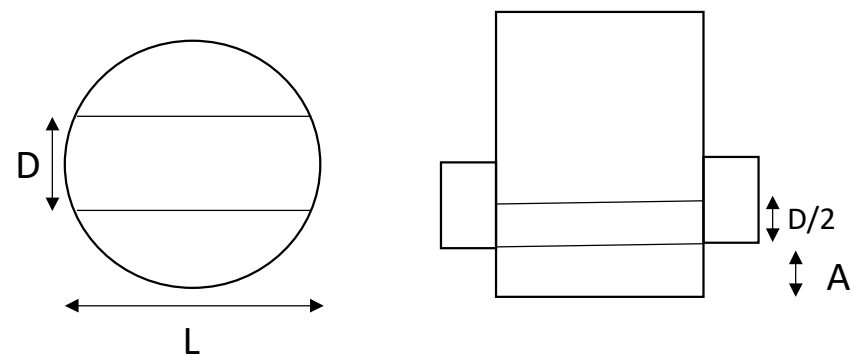
A	リブ	ヒューム
150	160	
250	160	
300		160
400		170
500		170

管布設替え部分

管布設替え部分	インバート体積	型枠	Co計	型枠計
M815-3 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M814-1 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M814-2 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M814-3 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M811-1 1号 φ 150*4	0.1826	0.7952		
M809-1 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M809-2 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M809-3 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M809-4 1号 φ 150*3	0.1859	0.6185		
M807-1 1号 φ 150	0.1893	0.4418	1.883	4.948
M642-1 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M642-2 楕円 φ 150	0.1235	0.4418	0.313	0.884
M815-1 3号 φ 150	0.5346	0.7245		
M815-2 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M810-1 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M810-2 1号 φ 150*1	0.1893	0.4418		
M802-1 1号 φ 150	0.1893	0.4418		
M804-3 1号 φ 150*3	0.1859	0.6185	1.478	3.11

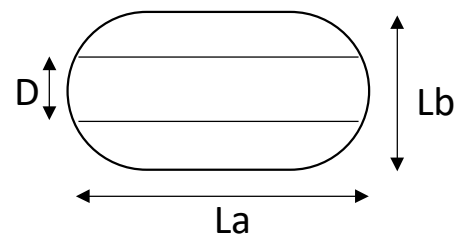
インバート体積 = (MH底面積 × 管中心までの高さ) - (管断面積 × MH内径 ÷ 2)

型枠面積 = (MH内径分の管表面積) ÷ 2



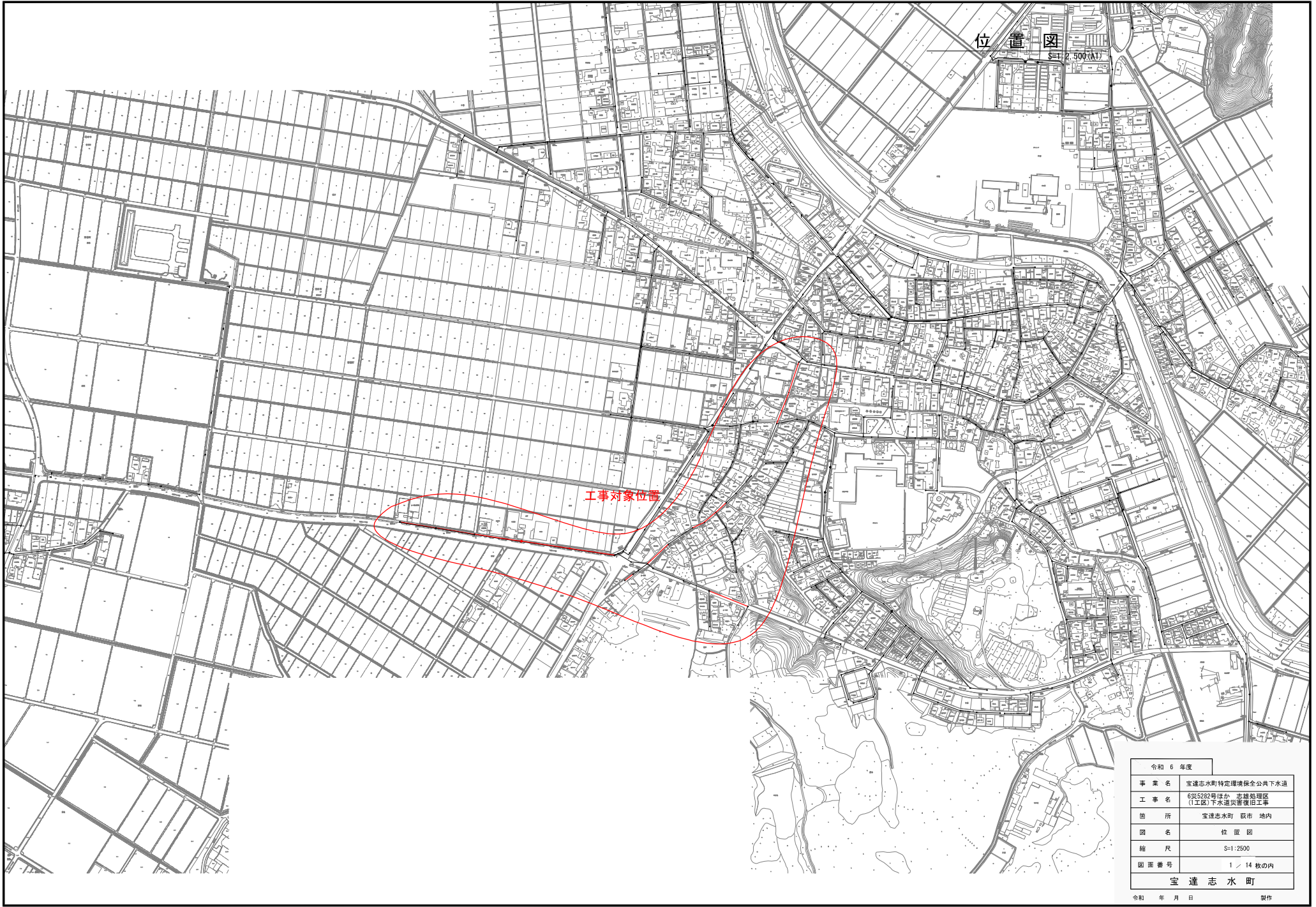
インバート体積 = $L^2 \times \pi/4 \times (A + D/2) - D^2 \times \pi/4 \times L/2$

型枠面積 = $D^2 \times \pi/4 + 2 \times \pi \times D \times L/2$



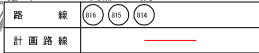
インバート体積 = $La \times Lb \times \pi/4 \times (A + D/2) - D^2 \times \pi/4 \times La/2$

型枠面積 = $D^2 \times \pi/4 + 2 \times \pi \times D \times La/2$



令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	6区5282号ほか 市雄船埋区 (1工区) 下水道災害復旧工事
箇所	宝達志水町 萩市 地内
図名	位置図
縮尺	S=1:2500
図面番号	1 / 14 枚の内
宝達志水町	

平面图 (1/4) 1:500



令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	6災5282号ほか 志雄船場下水 (1工区)下水道災害復旧工事
箇所	宝達志水町 萩市 地内
図名	平面図(1/4)
縮尺	1:500
図面番号	2 / 14 枚の内
宝達志水町	

平成 6 年 月 日 (株) 東洋設計 製作

平面図(2/4) 1:500

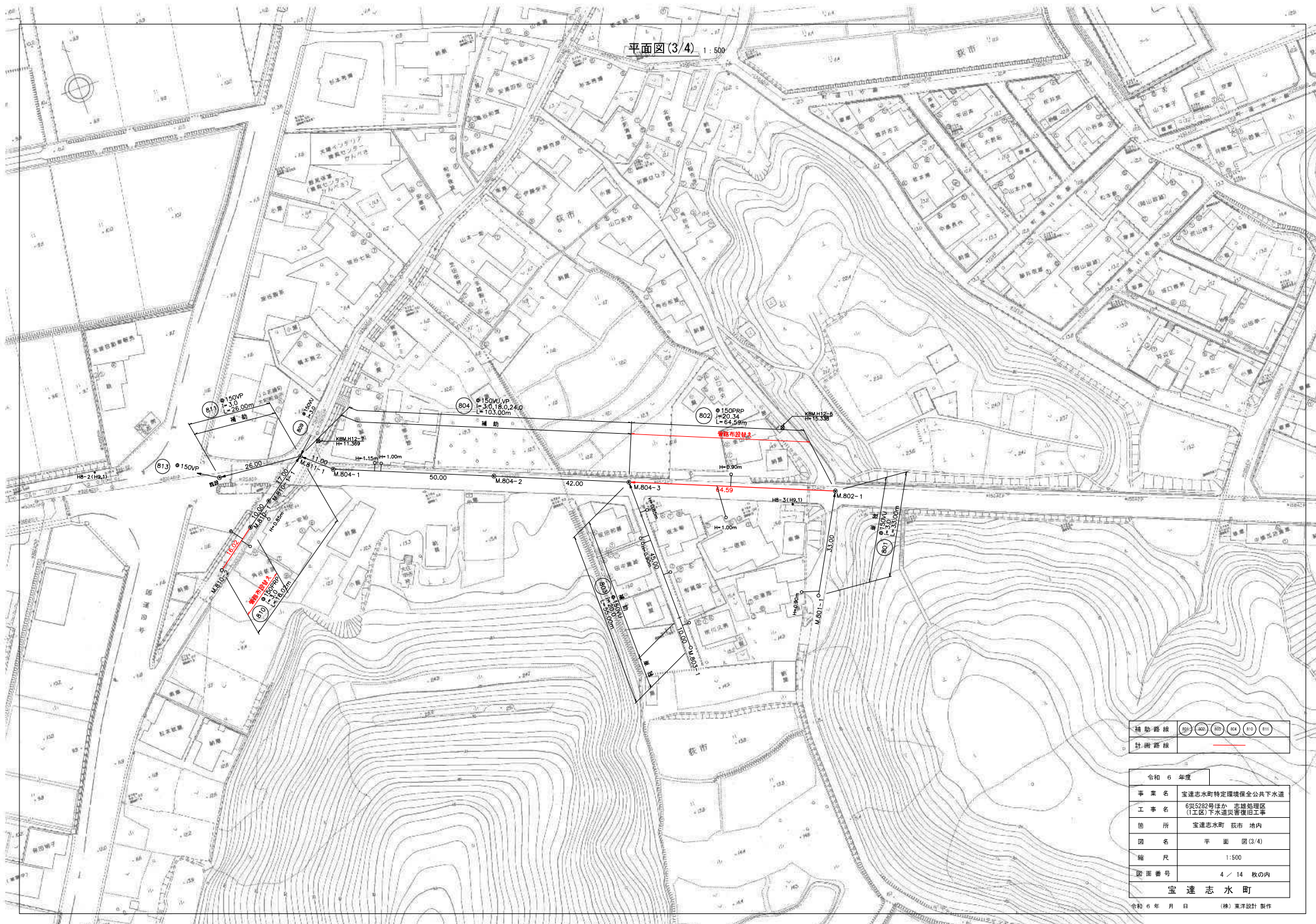


補助路線	80	81	82	83	84	85
計画路線						

令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	6区5282号ほか 志雄船埋区 (1工区)下水道災害復旧工事
箇所	宝達志水町 萩市 地内
図名	平面図(2/4)
縮尺	1:500
図面番号	3 / 14 枚の内
宝達志水町	

令和 6 年 月 日 (株) 東洋設計 製作

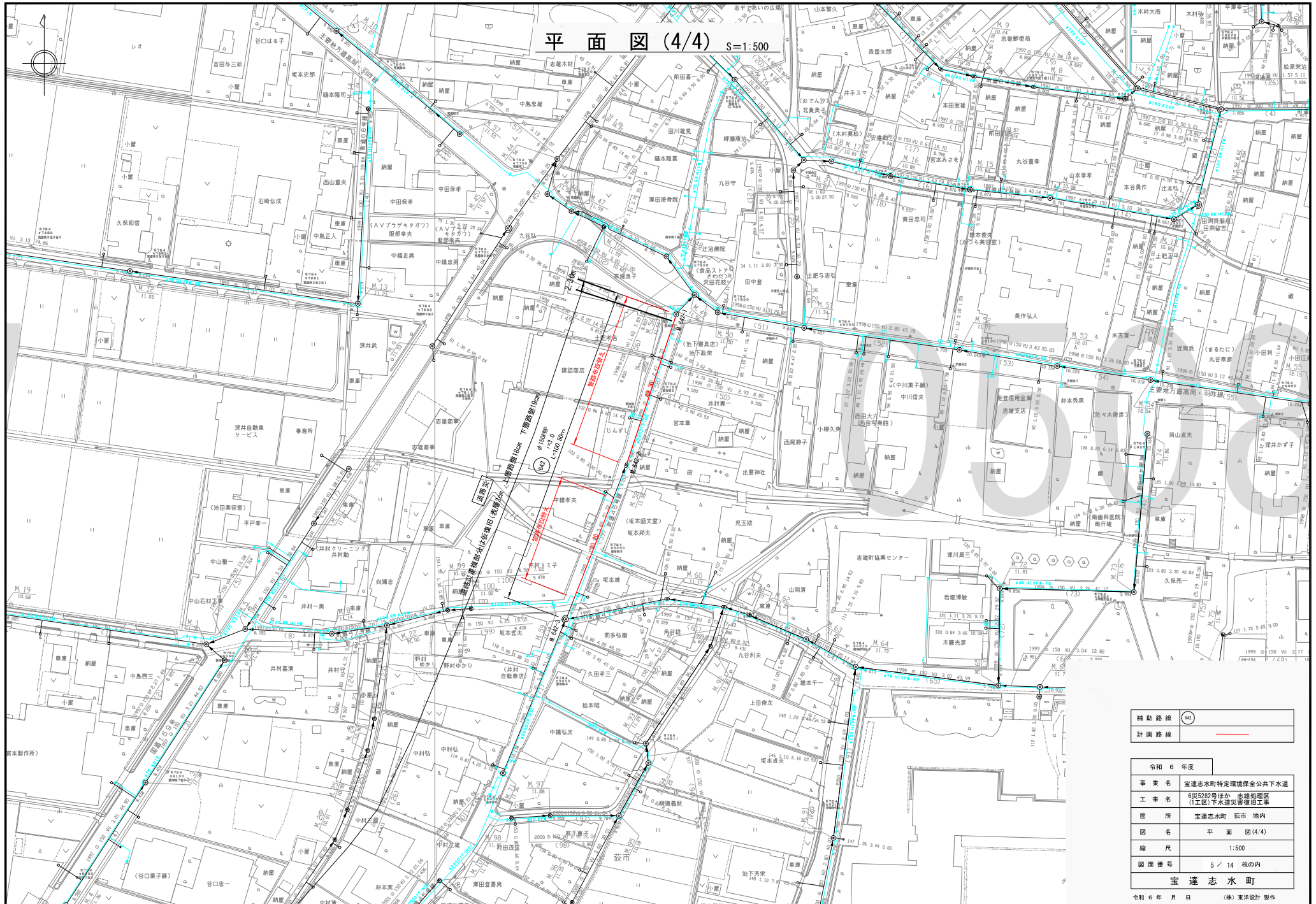
平面図(3/4) 1:500



補助管線	81	82	83	84	85	86
計画管線						

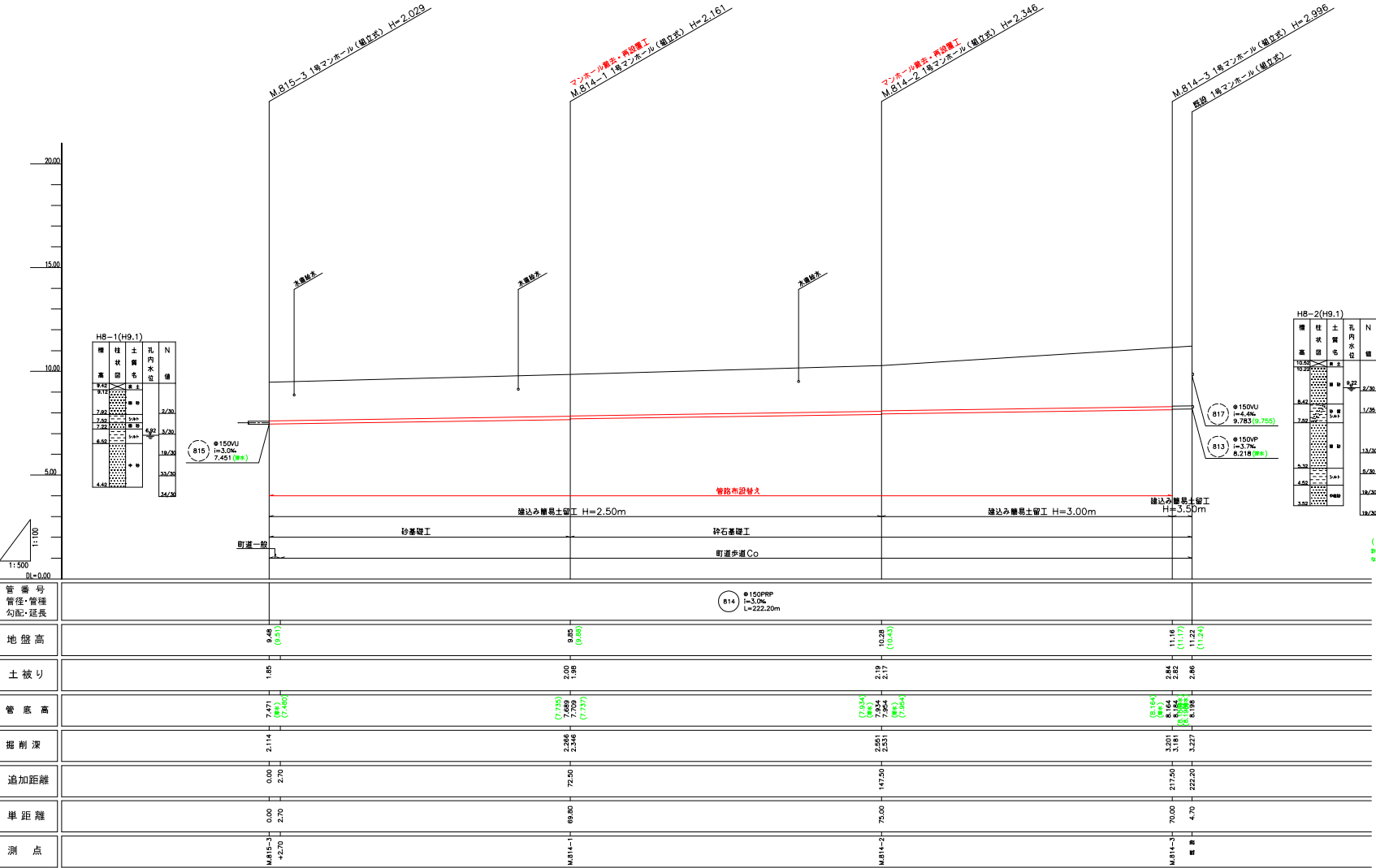
令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	5区522号ほか 宝達志水町(1工区)下水道災害復旧工事
箇所	宝達志水町 萩市 地内
図名	平面図(3/4)
縮尺	1:500
図番号	4 / 14 枚の内
宝達志水町	

令和 6 年 月 日 (株) 東洋設計 製作



縦断面図 (1/6)

V=1 : 100
H=1 : 500



()は、埋設位置を示す。
計画図の埋設は、3.0%基準とするが、上下段の埋設状況などにより、下段への埋設が困難な場合は、3.0%の勾配の埋設が可能な場合は、マンホールスタップを埋設する等対応を要するもの。

路線	814
計画路線	

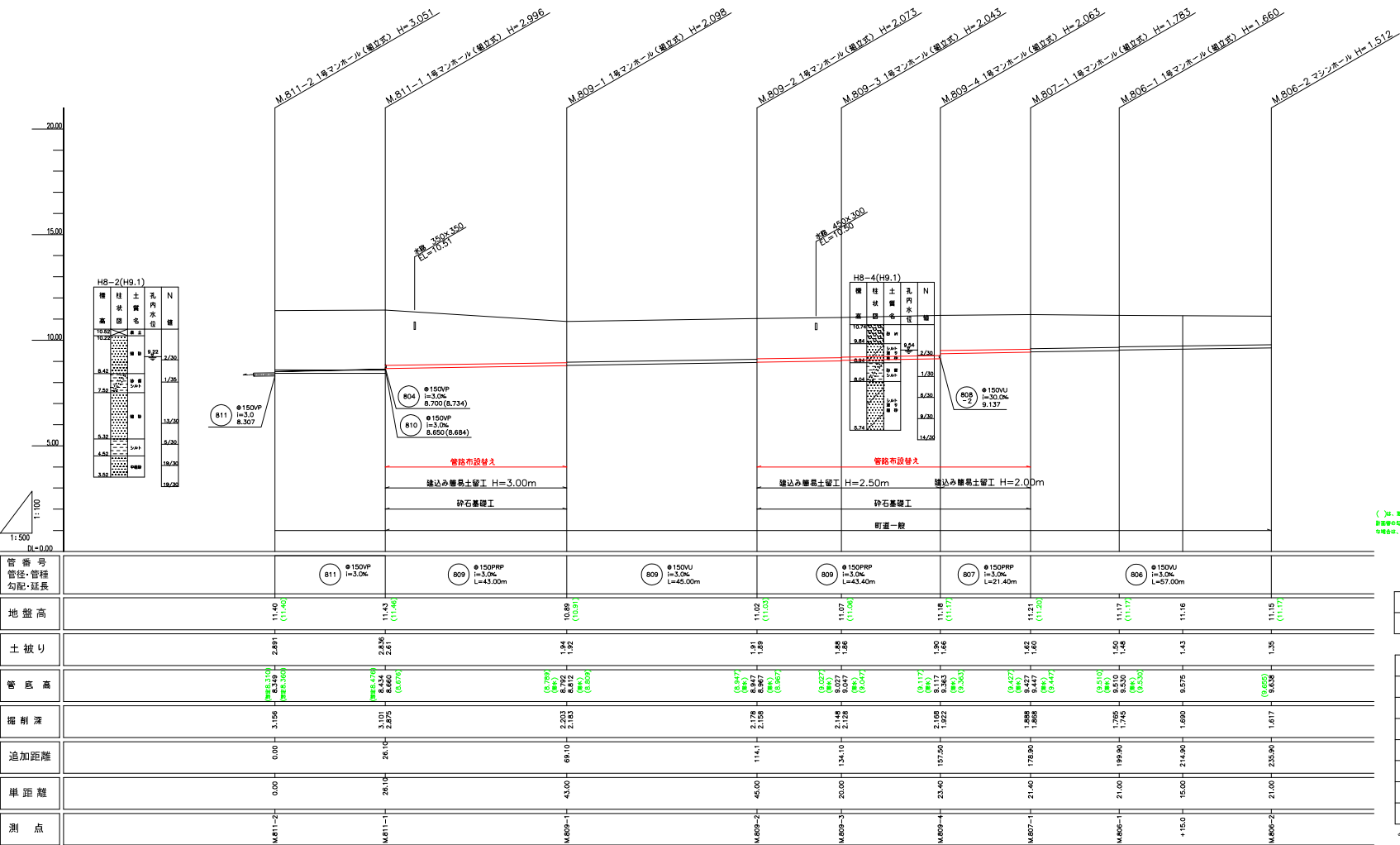
令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	6区528号線から志達地区 (1工区) 下水道改善復旧工事
箇所	宝達志水町 萩市 地内
図名	縦断面図 (1)
縮尺	H=1:500 V=1:100
図面番号	6 / 14 枚の内

宝達志水町

令和 6 年 月 日 (機) 東洋設計 製作

縦断面図 (2/6)

V=1 : 100
H=1 : 500



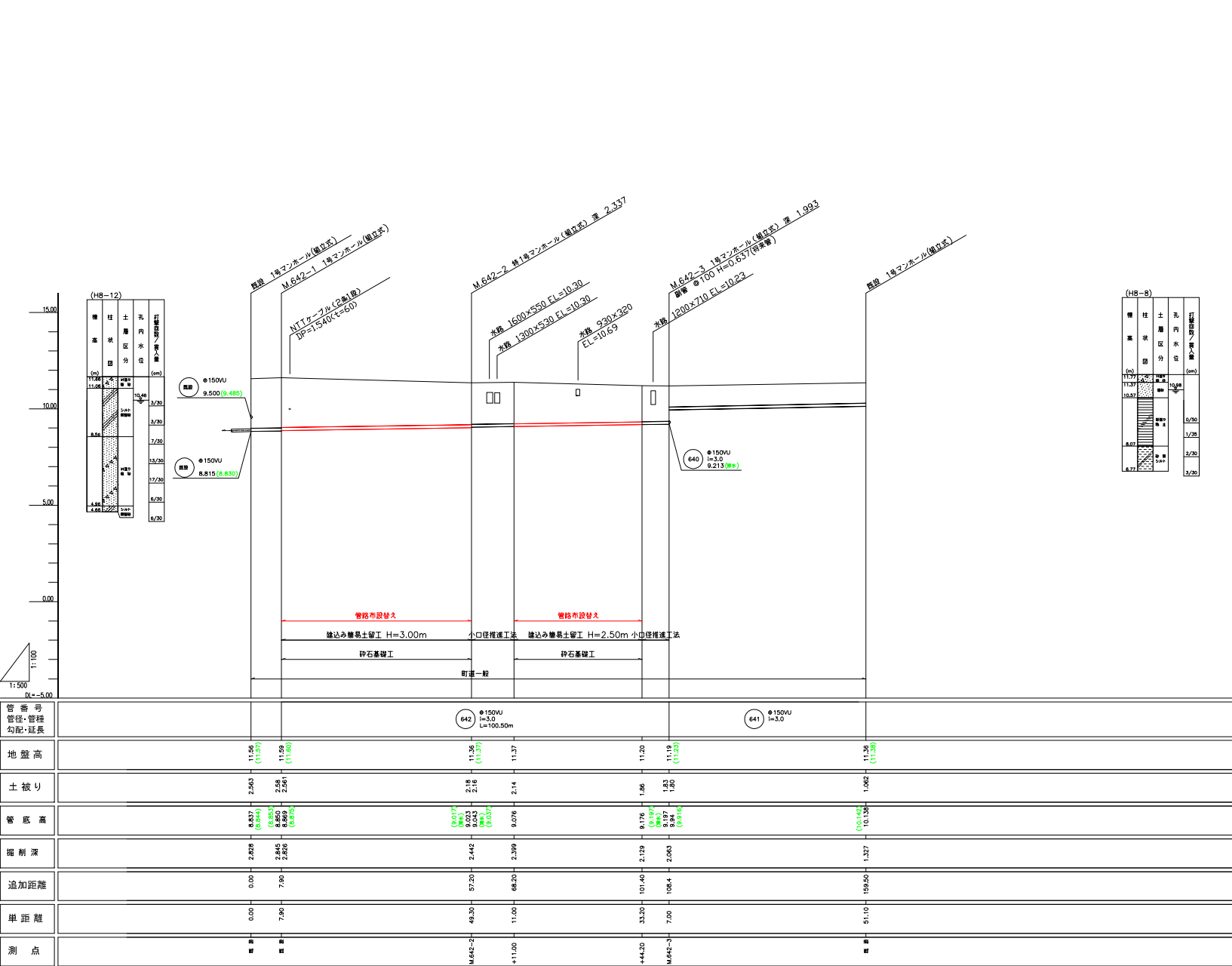
()は、参考値を示す。
計画線の勾配は、3.0%を基準とするが、上下段の管径が異なる場合、下段への傾斜が異なる場合は、3.0%の勾配の維持が図られる場合、マンホールスタップを確保する等、勾配を緩くしてもよい。

路 線	809	807	806
計画路線			

令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	6区5282号ほか 志達処理区 (1工区) 下水道改善復旧工事
部 所	宝達志水町 萩市 地内
図 名	縦断面図 (2)
縮 尺	H=1:500 V=1:100
図 面 番 号	7 / 14 枚の内

縦断面図 (3/6)

V=1 : 100
H=1 : 500



()は、参考値を示す。
計画線の勾配は、3.0‰を基準とするが、上下段の排水状況などにより、下流への傾斜が逆傾
の場合は、3.0‰の勾配の維持が困難な場合は、マンホールスタップを確保する等勾配を緩くしてもよい。

路線	642
計画路線	

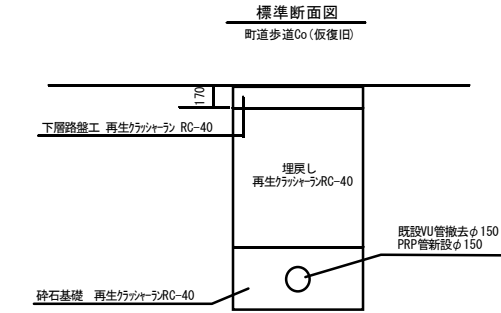
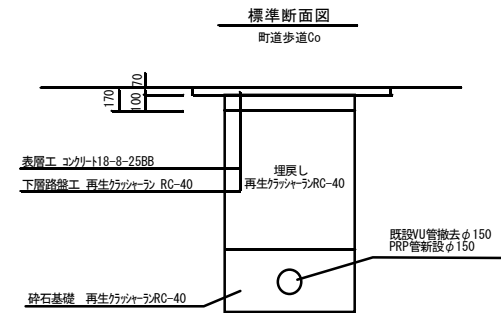
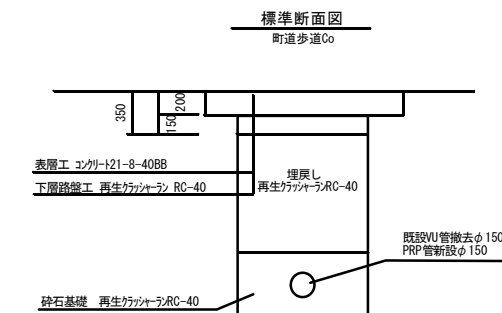
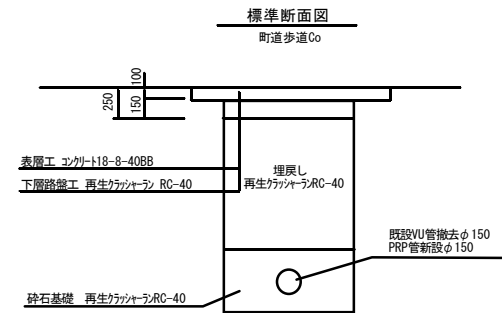
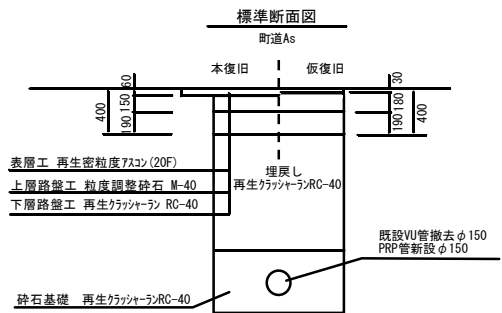
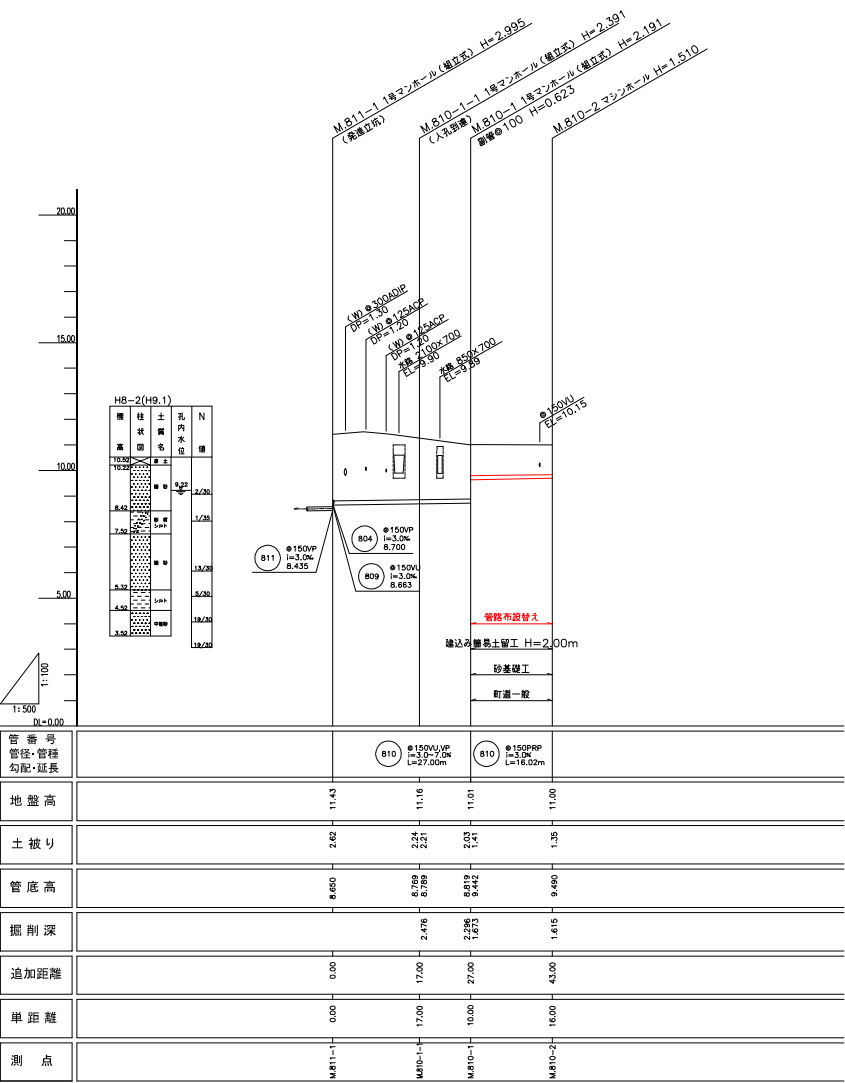
令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	6区5282号ほか 志達処理区 (1工区) 下水道改善復旧工事
箇所	宝達志水町 萩市 地内
図名	縦断面図 (3)
縮尺	H=1:500 V=1:100
図面番号	8 / 14 枚の内

宝達志水町

令和 6 年 月 日 (株) 東洋設計 製作

縦断面図 (4/6)

V=1:100
H=1:500

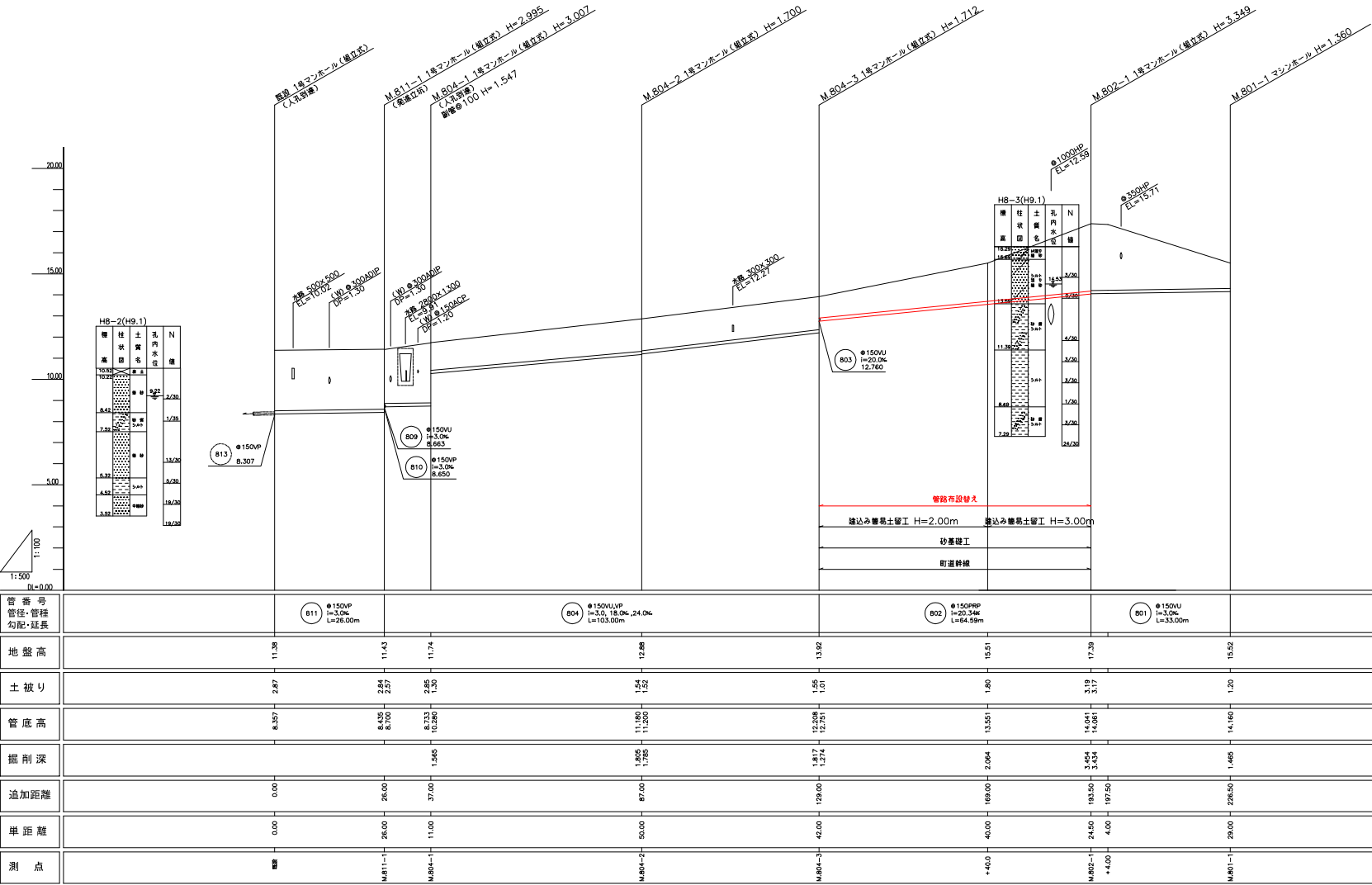


路 線	810
計画路線	

令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	6区5282号ほか 志達処理区 (1工区) 下水道改善復旧工事
箇所	宝達志水町 萩市 地内
図 名	縦断面図 (4)
縮 尺	H=1:500 V=1:100
図 面 番 号	9 / 14 枚の内

縦断面図 (5/6)

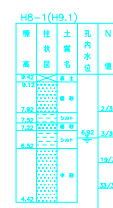
V=1 : 100
H=1 : 500



路 線	801802804811
計画路線	

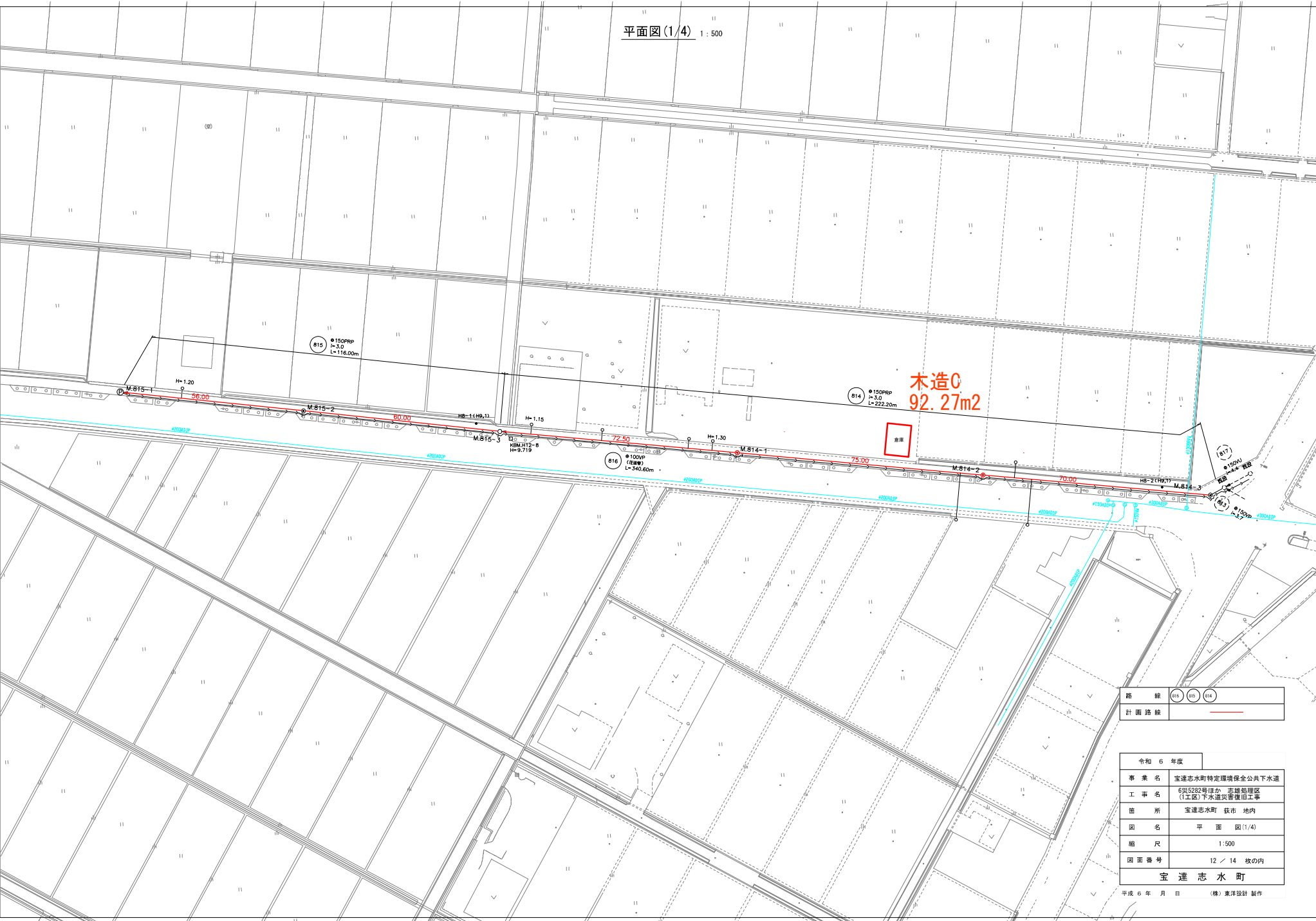
令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	6区5282号ほか 志達処理区 (1工区)下水道改善復旧工事
部 所	宝達志水町 萩市 地内
図 名	縦断面図 (5)
縮 尺	H=1:500 V=1:100
図 面 番 号	10 / 14 枚の内
宝 達 志 水 町	
令和 6 年 月 日 (株) 東洋設計 製作	

V=1 : 100
H=1 : 500



令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	6災5282号ほか 志達集排水 (1工区) 下水道災害復旧工事
箇所	宝達志水町 萩市 地内
図名	縦断面図 (6)
縮尺	H=1:500 V=1:100
図面番号	11 / 14 枚の内
宝 達 志 水 町	

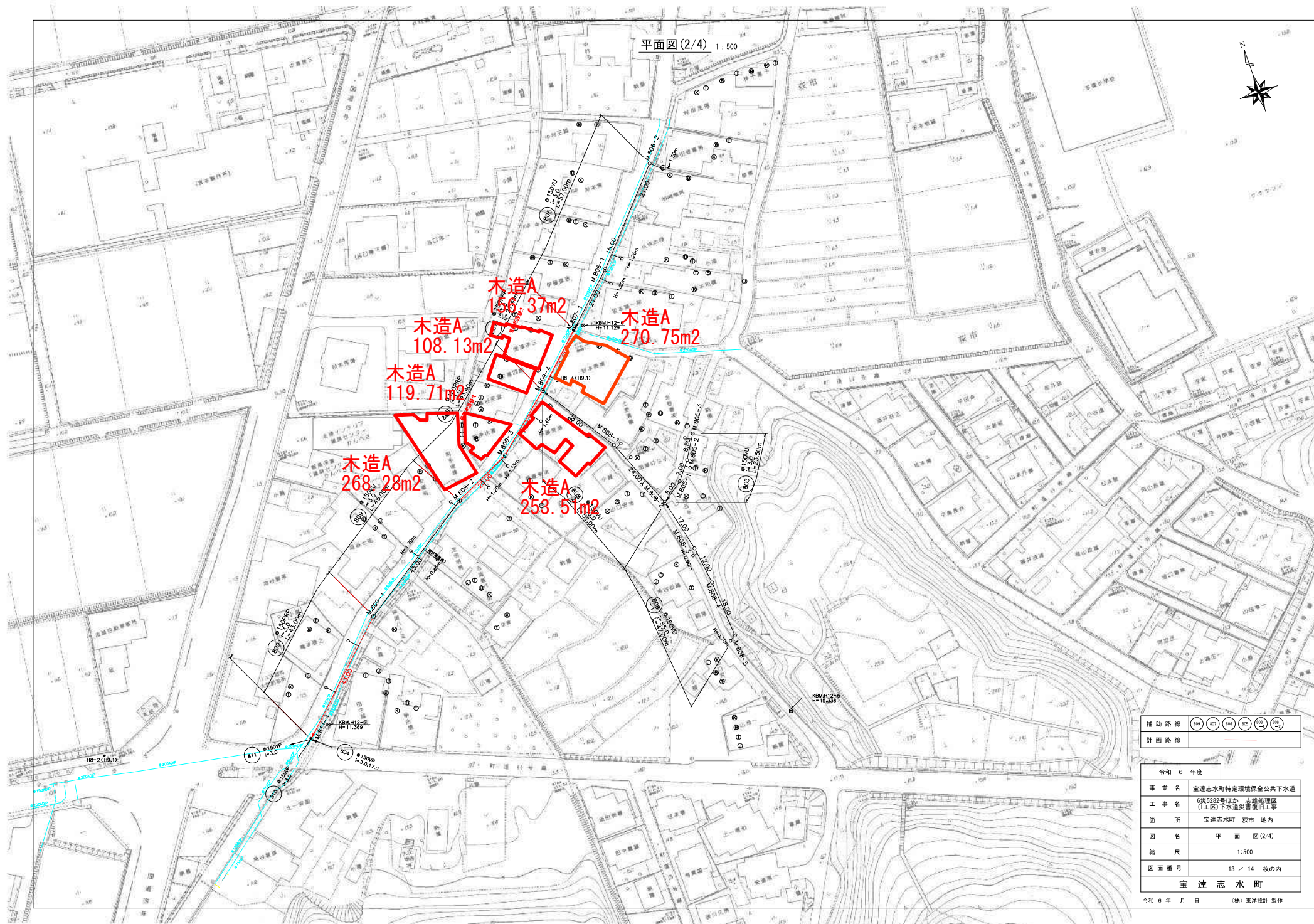
平面図(1/4) 1:500

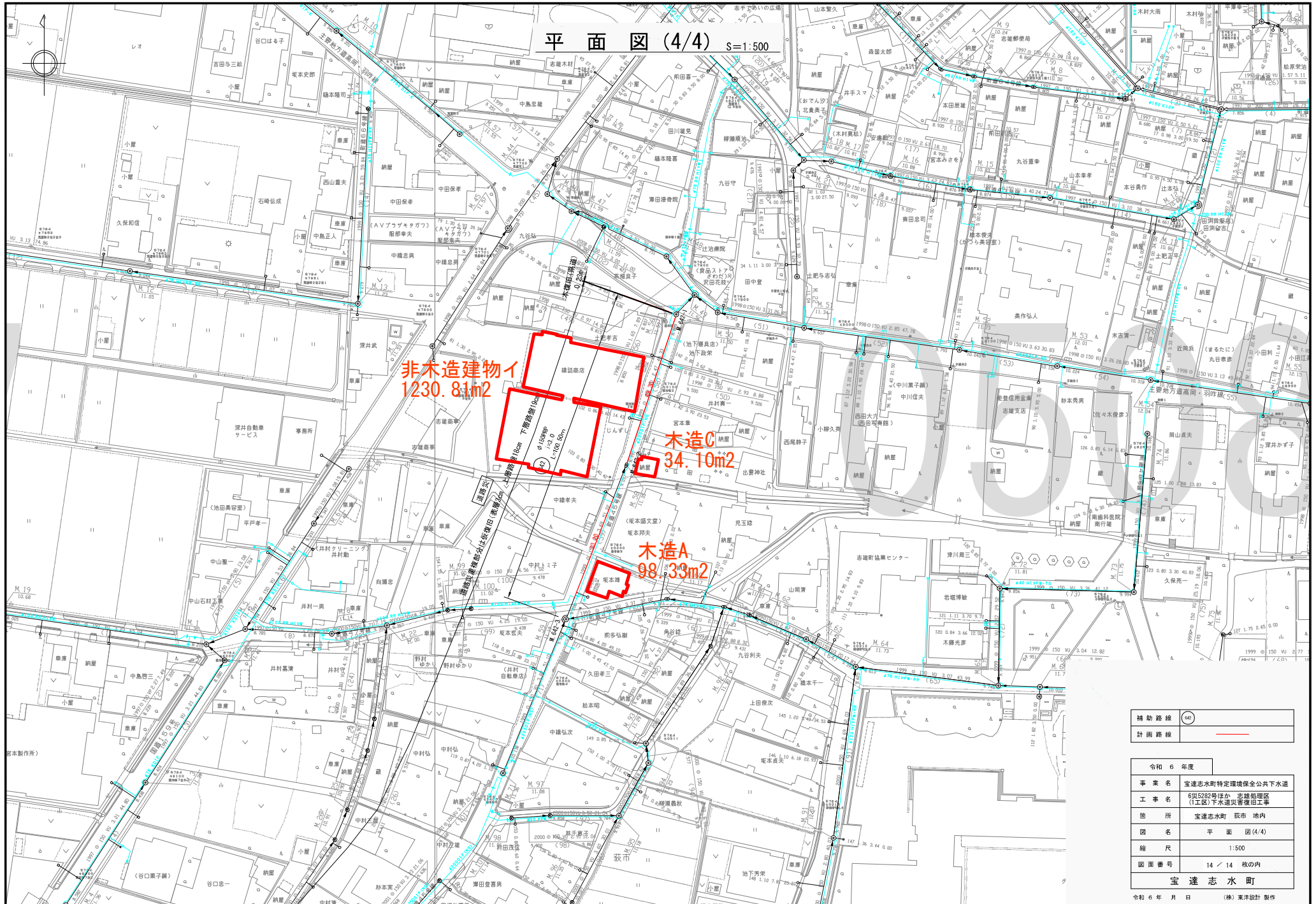


路線	⑧⑨	⑧⑩	⑧⑪
計画路線			

令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	6区5282号ほか 志達地区 (1工区) 下水道改善復旧工事
箇所	宝達志水町 萩市 地内
図名	平面図(1/4)
縮尺	1:500
図面番号	12 / 14 枚の内

宝達志水町





補助路線	66
計画路線	

令和 6 年度	
事業名	宝達志水町特定環境保全公共下水道
工事名	5区522号ほか 志達船渠区 (1工区) 下水道災害復旧工事
箇所	宝達志水町 萩市 地内
図名	平面図 (4/4)
縮尺	1:500
図面番号	14 / 14 枚の内
宝達志水町	

令和 6 年 月 日 (株) 東洋設計 製作